

蛇含草木テル

武田操美

キャスト

三好長子

鈴野静

赤碕美紀

岸本雪乃

鈴野克也

石田徹

三好麻美

近藤

三好隆弘 (表記・隆弘)

高校生の三好隆弘 (表記・三好 三好麻美役の役者によって演じられる)
松村先生(近藤役の役者によって演じられる)

関所の紀美 (赤碕美紀役の役者によって演じられる)

鳥一 (三好隆弘役の役者によって演じられる)

鳥二 (近藤役の役者によって演じられる)

山賊一 (鈴野静役の役者によって演じられる)

山賊二 (鈴野克也役の役者によって演じられる)

山賊三 (岸本雪乃役の役者によって演じられる)

時うどん従業員一 (三好長子役の役者によって演じられる)

時うどん従業員二 (赤碕美紀役の役者によって演じられる)

時うどん従業員三 (近藤役の役者によって演じられる)

すみれ畑の住人一 (鈴野静役の役者によって演じられる)

すみれ畑の住人二 (岸本雪乃役の役者によって演じられる)

すみれ畑の住人三 (近藤役の役者によって演じられる)

すみれ畑の住人四 (三好長子役の役者によって演じられる)

光の女神ヒカ (岸本雪乃役の役者によって演じられる)

光の女神メガ (近藤役の役者によって演じられる)

刑事、鑑識の人達

アナウンサー

プロローグ

そこはテレビでよく見かける事件現場の様だ。
鑑識や刑事達が作業をする中、

舞台中央に横たわる女の遺体にブルーシートがかけられる。

暗転

第一場

三好長子の家。

長子が一人机に向かい、何かを書いている。机には何冊かの本が置かれており、時折、調べ物でもするかのようにその本をめくっては、ブツブツと読み上げる。

長子

孤独死現場は凄惨です。強い腐敗臭と腐敗液や血液の混ざった体液、…人が亡くなると一時間もしないうちに身体の中で腐敗が始まります。孤独死ですぐに遺体が発見されなかった場合その腐敗は進行していきます。孤独死で遺体が溶けてしまうのはこの腐敗によって身体の成分が分解されてしまうことが原因です。

長子の娘、麻美が来る。

麻美

なんで？

長子

何が？

麻美

なんで私の部屋が本だらけなの？

長子

お母さんとお父さんの部屋も本だらけよ。

麻美

は？なんでそんなに本があるの？

長子

買ったから。

麻美

だからなんでそんなに買うのよ？

長子

読むからに決まってるでしょ。

麻美

あんなに？あんなに読むの？

長子

そうよ。実はお母さん、

麻美

あつ、もしかしてあれ？

長子

何？

麻美

詐欺のやつ？

長子

詐欺？

麻美

これを持てれば資産価値が上りますよみたいなのか、友達に売ったら何パーセント入るわよみたいな、マルチとかねずみ講とかネットワークビジネスとかマネーロンダリングとかのやつ？それであんなに本買わされたの？

長子

違うわよ、勉強の為に読もうと思って買ったの。

麻美

勉強？

長子

そう。

麻美

なんの？

長子

なんのって、

麻美

見たら小説とかばかりだったけど、あれでなんの勉強するのよ？

長子

だから小説の勉強よ。お母さん小説家になろうと思ってるの。

麻美

え？

長子

そうだ、今日の晩御飯なんだけど、お父さんに麻美帰って来てるわよっラインしたら、急いで帰るから外で食事しないかって、

麻美

いやちよっと待って、晩御飯の話に行く前に小説家になろうと思ってるのって言った？

長子

え、うん。

麻美

小説家になろうとして、あんなに大量の本を買って、私の部屋を本だらけにしたの？

長子

そうよ。けどそもそも麻美の部屋じゃないでしょ、あんたはもう家を出て一人で暮らしてるんだから。

麻美

それはそうだけど、

長子

それでどうする？お父さんは焼肉行こうって言っただけど、お母さんはお寿司がいいなって、

麻美

晩御飯なんかどうでもいいでしょ。

長子

どうでもいいって、どっちでもいいってこと？

麻美

そんな話じゃなくて。…お父さんは？お父さんはなんて言ってるの？

長子

だから焼肉がいいって、

麻美

だから晩御飯の話じゃなくて、お母さんが急に小説家になるなんて言い出したことになんて言ってるの？

長子

別に急にじゃないわよ。お母さん元々文芸学部だったから。

麻美

って、それ何年前の話よ。

長子

何年前だって学んだことには変わらないでしょ。それにあぐらかかずにちゃんとまた勉強しようとしてるんだし。それで麻美はお寿司と焼肉どっちがいいのよ？

麻美

別にどっちでもいいわよ。

長子

じゃあ、お父さんに麻美もお寿司が食べたいって言ってもいい？

麻美

…ていうか、お父さん何処行ったの？日曜なのに、

長子

落語。

麻美

落語？

そう。

へえ、お父さん落語なんか観に行くんだ。

観に行ってるんじゃないわよ。お父さんが落語してるの。

え？何それ？

あの人、大学の時落研だったから。

落研って、落語研究会？

そう。

って、それ何年前の話よ。

そうねえ、三十四年か。一年くらい前にその落研の同窓会があつて、みんなでまたやろうつて盛り上がったんだつて、ほら、一時流行ったじゃない、親父バンドみたいな。だから親父落語ね。

親父落語って、

最近ではサービスとか老人ホームにもボランティアで行つてて、

私が家を出てたつた半年で何でそんなことになってるの？夫婦そろつて何があつたの？

そんなことつて。まあそれぞれにきつかけはあつたけど、麻美も就職して家を出たんだし、お互い自分の好きな事なんかも始めようかつてのは、自然な流れでしょ。けど小説家に落語つて…、そういうのは絵画教室行つたり、陶芸教室行つたりじゃないの？

絵画や陶芸が好きな人はそうだろうけど、お母さんは小説、お父さんは落語が好きなんだから。そうだ、お母さんの書いた落語の台本読んでみる？

え、落語の台本も書いてるの？ああ、お父さんの落語書いて上手くいったから小説も書くつて思つたつてこと？

違つわよ。小説書くつて思つたから、試しにお父さんの落語も書いてみたの。そうだ、読まなくてもDVDがあるのよ。

DVD？

お父さんが落語してるやつ。お父さんはお母さんの書いた台本のせいで全然受けなかった、もう二度とやらないつて言っただけど、絶対台本じゃなくてやり手の問題だと思ふのよね。だから、どっちが悪いか見てくれない？

いや、いいわよ。

いいじゃない、どうせ暇なんでしょ。せつかくの休みに実家に帰ってきてコロコロしてるだけなんだから、ちょっとテレビつけて、DVDを持って来るから。

長子行く。

麻美

…なんなのよ一体…、

と、言いながらも麻美はテレビをつける。

テレビから流れるニュース、刑事や鑑識の人やアナウンサーが見える。

アナウンサー　一月二十六日、野瀬町の住宅で死後数ヶ月は経過している白骨化した遺体が発見されてから一週間、当初事件性も疑われ、警察が遺体の身元と死亡の経緯等を調べておりましたが、

長子DVDを持って来る。

長子　ほら、これこれ、

麻美　いや、だからいいって、

長子　いいじゃない、ちよつと見るぐらい。ちゃんとテレビつけて待ってた癖に。

テレビに目をとめる長子。

アナウンサー

遺体はその住宅に住んでいた、鈴野静さん五十二歳と判明し、事件性はなく、いわゆる孤独死であると発表されました。社会から孤立し、一人で人生の最後を迎える孤独死。この孤独死は年々増加傾向にあり、

長子　え？

麻美　何？

長子　…この人。

麻美　知ってる人なの？

長子　うん。いや、お母さんじゃなくて、

麻美　え？

長子　お父さんと同じ部活の、後輩だと思っ。

麻美　じゃあ、その親父落語の人？

長子　うつつん、それは大学の落研で、この人は高校の、あっお父さん高校の時も落研で、落研好きね。

物凄く前だけど、うちにも来たことがあるのよ。その落研の部員同士で結婚するから結婚式で全員集合だな、なんて言って盛り上がってて、野瀬町に住んでたし、そう、鈴野さんって人と結婚したから、間違いないと思う。

麻美　よく覚えてるわね。

長子　結婚の時だけじゃなくて、その後も夫婦で落語の聞ける鉄板焼き屋始めて、なんなのその、落語の聞ける鉄板焼き屋って、

麻美　それで、お父さんと何度かそのお店にも行ったことあって、やだ大変、お父さんに知らせた方がいいのかな。

麻美　知り合いなら、まあそっかな。

長子　そうだ、卒業アルバム部の部活のページに載ってたんだ。うちに来た時わざわざ引っぱり出して見てたもん。もう一回あれで確認して、

等と言いながら、長子行く。

麻美

え、ちよっと、

麻美、テレビを見る。

麻美

お父さんの後輩か…。

長子声

麻美！手伝って！お父さんの卒業アルバム、本の山の下になっちゃって取れないの！

麻美

だから本買い過ぎなんだって、

等と言いながら麻美行く。

流れ続けるニュース映像、その中の死体にかけていたブルーシートが動く。

ブルーシートの中から鈴野静が現れる。

と、岸本雪乃来る。

そこは鈴野静の家。

雪乃

なんで？

静

何が？

雪乃

なんでトイレが服だらけなの？

静

向こうの部屋も服だらけよ。

雪乃

は？なんでそんなに服があるの？

静

買ったから。

雪乃

だからなんでそんなに買うのよ？

静

使うからに決まってるでしょ。

雪乃

使う？使って何よ。着るってこと？あんなに？あんなに着るの？三百六十五日ほぼ同じ服で過ごしてるような静が？

静

悪口？

雪乃

いやだって、

静

まあ、確かに着る訳じゃなくて、

雪乃

そうよね、なんか変な服ばかりだったもん。

静

そうなの変な服なの。実は私、

雪乃

あつ、もしかしてあれ？

静

何？

雪乃

詐欺のやつ？

静

詐欺？

雪乃

これを持てれば資産価値が上りますよみたいなとか、友達に売ったら何パーセント入るわよみたいな、マルチとかねずみ講とかネットワークビジネスとかマネーロンダリングとかのやつ？それであんなに服買わされたの？

静

違うわよ。なんか近所の奥さんがメルカリで手作り小物売ってて、あつ、メルカリってわかる？

雪乃

わかるわよそれくらい。個人で簡単に物の売り買いが楽しめる、フリマアプリでしょ。

静

めちゃくちゃ詳しいわね。

雪乃

近所の奥さんがやってて、色々説明してくれるのよ。

静

やっぱり流行ってるのね。まあ、だから私もやってみようかって、

雪乃

やってみようかなはいいけど、なんであんな変な服ばかり大量に買ったのよ。

静

そこよ。

雪乃

どこ？

静

色々調べたらコスプレの服、あつ、コスプレってわかる？

雪乃

わかるわよそれくらい。うちの子の友達もやってるもん。

静

ほらやっぱり流行ってる。そういう服が凄い値段で売れてて、これだ！って思ったのよ。

雪乃

だからってなんであんなに買うの？作って売るんじゃないの？

静

知識ゼロなんだから勉強しないとでしょ。

雪乃

…静のときの鉄板焼き屋、そんなにうまくいつてなかったの？

静

え、なんで？

雪乃

だから新しい商売始めようとしてるんですよ。

静

いや別に、

雪乃

やっぱり私のせい？

静

何が？

雪乃

店の売り上げを支えていた私が、旦那の転勤について北海道なんか行くことになったから、それで？

静

売り上げを支えてたって何よ、確かに雪乃よく食べに来てくれたけど、そんなことで店が傾く訳ないでしょ。そうね、雪乃が食べてたのは、せいぜい売り上げの三分の一くらいよ。

雪乃

そんなに食べて無いでしょ。

静

いや結構食べてたって、

雪乃

そうかな？

静

うん。

雪乃

そもそも、静の大食い鉄板焼き屋、

静

大食い鉄板焼き屋じゃないわよ、落語の聞ける鉄板焼き屋。

雪乃

だからその、落語の聞ける鉄板焼き屋なのよ。一品の量が多すぎるのよ。どいう意味？

静

雪乃　つまり、落語が聞けて、その分落語家さんに払うお金もかかるでしょ。
うん。

雪乃　普通そついう場合、食べ物のコストを抑えて、え？これだけ？ってくらいちょっとの量出すものじゃない。

静　だっていっぱい出すのが私の夢だったんだから、
だからよ、だから落語の聞ける鉄板焼き屋なんかやめて、大食い鉄板焼き屋にすればいいのよ。

静　だって、かっちゃんの夢は寄席をやることなんだもん、それぞれの夢を合体するとどうしたって、デカ盛り食べながら落語を聞くて形にしかないのよ。そもそも落語がうちの店の目玉なんだし、

雪乃　落語が目玉ってのがどうもね。

静　元落研とは思えない発言ね。

雪乃　私の知る限り、静の店に通ってる人のほとんどが、落語じゃなくてデカ盛り目当てよ。

静　デカ盛って言えばさ、私、北海道フェア考えてるの。

雪乃　北海道フェアって？

静　雪乃が北海道に引っ越したら、道にゴロゴロ落ちてる毛ガニとか、夕張メロンが大量に送られて来ることになるでしょ。だからそれで北海道フェアするの。

雪乃　静、北海道のイメージ絶対間違ってるわよ。毛ガニも夕張メロンも道にゴロゴロ落ちてないから。

静　そつなの？

雪乃　まあ、こつちで買うよりは安いだろうから送るけど。

静　私、毛ガニ食べたことないから楽しみ。って、そついえば引越しの準備はいいの？
今日は私がそつちに行った方が良かったんじゃない？

雪乃　まだ一ヶ月あるもん、あつけど、次の休みは来てよ。

静　わかった。かっちゃんも連れて行く、結構力持ちだから、

雪乃　そつ言えばその力持ちの旦那様の克也先輩は？今日お店休みなのに、どっか行ってるの？

静　病院。市民検診にひっかって再検査なの、

雪乃　大丈夫なの？

静　大丈夫よ。私も去年ひっかったじゃない。ほら、検便で、

雪乃　大丈夫じゃなかったじゃない、ポリプあつて切ったでしょ。切る時怖かったって大騒ぎしてたじゃない。

静　だって、本当に怖かったんだもん。こんな管から、針金みたいな出てきて、プシューシューって取るんだから、あと、うんこ見えた時物凄く恥ずかしかった。
え、うんこ見えたの？

雪乃　そう、あれなんだろうね、前日からあんなに下剤飲まされてなんで残ってたんだろうね。

雪乃

静

ほら、そういうこともあるから、克也先輩も安心できないじゃない。かつちゃんは大腸じゃなくて胃だからうんこ見えたりしないわよ。お昼は病院で食べてくるっ張り切ってたし、

雪乃

病院で？

静

新しい病院出来たでしょ、

雪乃

市役所の向こうの？

静

そう、あそこ見た目だけでも豪華で、カフェとかレストランとかもあるんだってウキウキしてた。

雪乃

そうなんだ…、じゃあさ、私達もお昼どっかに食べに行く？

静

私、行きたいところがあるのよ。

雪乃

何処？

静、天井屋のチラシを出して雪乃に見せる。

静

ここ。

雪乃

天井屋さん？

静

ほら見て、ここの天井セット、豚の角煮もついているの。

雪乃

やだ、美味しそう。

静

私、肉の油が一番好き。

雪乃

知ってる。

静

それで、ただの油が二番目に好き。

雪乃

それも知ってる。

静

それにここの巨大海老天、こーんな大きいのに、ほぼ衣ばかりなんだって、身がないんだって、最高でしょ？

雪乃

最高かな？私は身も食べたいわよ。

静

なんでよ、衣が一番美味しいんじゃない。しかもよ、チャレンジメニューであるの。

雪乃

チャレンジメニュー？

静

そう、特大総重量三、五キロ天井、豚の角煮一キロつきセットを三十分以内に完食の方無料。

雪乃

無料？！いいじゃない！

静

でしょ。

雪乃

インターホンの音が響く。

静

誰だろ？はい。

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静、玄関へと行く。

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

雪乃

静

近藤　　つてことは、鈴野さんと同じ学校の？
静　　そう、同級生で部活も一緒だったの。

雪乃　はじめまして、岸本雪乃です。静がいつもお世話になってます。
近藤　あら、じゃあやっぱり後で、いや、明日来るわ。せっかくの再会のお邪魔しちゃ悪いし、

静　　いいのよ、同級生って言っても、しょっちゅう会ってる身内みたいなもんなんだから、

雪乃　ええ、しょっちゅう会ってるからお気遣いなく、（静に）そつだあれ、もうすぐ焼けるんじゃない。

静　　ああ、そうね。（近藤に）ちようど、雪乃が持ってきてくれたサツマイモ焼いてるから近藤さんも食べてつてよ。ほらサツマイモつて時間かけて焼いた方が甘くて美味しいでしょ。だからオーブンでじっくり焼いてるの。

近藤　え、天井屋に行くんじゃないの？

静　　それは、おやつのサツマイモ食べた後の、お昼の飯の話よ。

近藤　へえー。

雪乃　特大天井食へに行くなんて思ってたから、こんな大きなサツマイモ六本も焼いちやって、ぜひ食べていってください。

近藤　ありがとうございます。二人共特大天井は食べる前提なんですね。

静・雪乃　うん（ええ）、お昼の飯にだから（ですから）

近藤　わかった。じゃあソツマイモ食べるの手伝うわ。

雪乃　助かります。

静　　あと五分くらいで焼きあがるから。

近藤　つて、違つわ！

静　　何が？

近藤　私、おやつの馳走になりにきたんじゃないのよ。

静　　え、何？

近藤　毎年、敬老の日に町会の老人会でちよつとしたパーティーやってるんだけど、知ってる、うちの夫のお父さんも連れて行ってるもん。

近藤　そうだったわね。それで今年の余興は何がいいかってことになってね。

静　　確か去年は有名ユーチューバー呼んで、メイクの実演ショーやってたわよね。

近藤　そうなの、けどそれが評判悪くて、

静　　でしょうね。

近藤　だから、今年はもつとお年寄りが楽しめる物にしようつてことになって、うん。

近藤　鈴野さんのお店に出てる落語家さん、紹介して貰えないかと思ってるんだけど、どうかな？

静　　わかった、誰がいいとか希望あるの？

近藤　うづうん、誰でもいいんだけど、あつ、値段は？高いの？

静 それも大丈夫、うちの学校からスターが出てるから、そのつてもあるし、スター？

近藤 うちの落語研究会から一人だけ、本物の落語家になった子がいて、

雪乃

静 はいきなり三味線で出囃子を弾き、雪乃は太鼓を叩く。

と、現れるスターの石田徹、そのまま通り過ぎて行く。

近藤 なんなの、いきなり？

静 いや、スターの話したら懐かしくなって、

雪乃 落研って鳴り物の練習もするんです。

近藤 へえー。

静 まあ、とにかく任せといて、こういう時の為に落語の聞ける鉄板焼き屋やってるんだから、

雪乃 こういう時の為だったの？

近藤 助かるわ、本当にありがとう。

静 何言ってるのよ、うち夫婦で店やって町会の手伝い全然出来ないから、たまには活躍しないと、

オーブンの焼きあがった音が響く。

静 あ、サツマイモ焼けたみたい。

近藤 ちょっと待って、オーブン開けないで、家からピーナッツバター持って来るから、ピーナッツバター？

近藤 私、熱々の焼き芋にはピーナッツバター塗って食べるのが一番好きなの。

静 何それ、美味しそう。

近藤 だからなるべく温度下げないように、オーブン開けないで待ってて。すぐ戻るから。わかった。

近藤行く。

雪乃 はちみつかけたりアイス乗せたりはするけど、ピーナッツバターは初めてね。うん、絶対美味しそう。……いい人でしょ。

静 そうね。ご近所さんがいい人って大事よ。それに、本当に松村先生に似てるし。そうなのよ、会わせたらドッベルゲンガー見たみたいになって爆発したりして、ドッベルゲンガーは爆発するんじゃないって何日か後に心臓が止まるんじゃないかな？

静 なんだ、爆発しないの？

雪乃 って、松村先生、生きてるのかな？

静
雪乃

当時四十代後半だったとして、もうもの凄いなだもんね。
なんか懐かしいなあ。静が克也先輩と結婚して、落語の聞ける鉄板焼き屋なんて始めたから、克也先輩にもスターにもチョコチョコ会えたけど、北海道に行ったら、そうはいかなくなるもんね。

静

そうね、北海道は遠いから。

雪乃

絶対旅行に来てよ。

静

行くわよ、北海道にただで泊まれる宿ができて、行かない人いないでしょ。

雪乃

ならいいけど。

静

けど、…寂しくなるわね。

雪乃

…うん。

と、突然鳴り響く学校のチャイムの音。

高崎高校落語研究会一年生部員、石田徹来る。

徹

おはようございます。すみません掃除当番で遅くなって、

そこは静と雪乃が通っていた高崎高校の落語研究会の部室のようだ。

静と雪乃は制服に着替えながら、

静
雪乃

あ、おはよう、
徹君、おはよう。

静

三年生もまだ来てないから、慌てなくても大丈夫だよ。

徹

三年の先輩方、どうされたんですか？

雪乃

なんか、進路指導があるんだって、

徹

へえ…、あの静先輩、雪乃先輩、

静

何？

雪乃

どうしたの？

徹

実は、クラスの子に、部活選びを考え直した方がいいんじゃないかって言われて、

静・雪乃

なんで？

徹

その、落語研究会の部室だけ、時間が早く流れてるんじゃないかって、

静

オカルト話？

徹

いや、時間が早く流れるのは、オカルトって言うよりSFじゃないですか？ どん

静

ちかっというと、

雪乃

そうねSFね、どっちかっというと。

徹

どっちでもいいわよ。それで、なんでそんな話になったの？

徹

落研の先輩達は、どう見ても高校生に見えないって、

静・雪乃

え？

徹

高校生どころか、五十は越えてるように見えるって、

静・雪乃

は？

静

その落研の先輩達の中に私入ってる？

徹

入ってます。

雪乃

私も？

徹

入ってます。しかもそれは僕も入部した時から思ってた。

静・雪乃

思ってたんだ。

徹

けど二年のお二人だけじゃなくて、もちろん三年の克也先輩も、

静

確かに、克也先輩は老けてるわね。

雪乃

うん、老けてる。

徹

でしょ、それに僕も入学式の時、年相応だったのに、今はどう見ても四十代後半にしか見えないって言われて。そんなことないですよ？

静

うっうん、見えてる。

徹

やっぱり、クラスのやつらが言う通り磁場の歪みとかで、この部屋だけ早く時間が流れてるんだ。

雪乃

そんな訳ないでしょ。

静

けど待って、私、昨日、制服着てるのに商店街の人に、奥さん安いよって言われた。

雪乃

ああいう人って誰にでも奥さんって言つのよ。

静

そうよね。

徹

そうかな？

雪乃

けど私も、よく小学生におばちゃんって言われる。

静

小学生から見たら一七歳なんてもうおばちゃんじゃない。

雪乃

そうよね。

徹

そうかな？磁場がゆがんで、知らず知らずのうちに年をとってるんじゃないですか？

静・雪乃

そうなのかな？

高崎高校落語研究会三年生部員、鈴野克也来る。

克也

違っよ、お前達みんなただ老けてるだけだよ。

雪乃

あつ、克也先輩。

静

克也先輩も老けてますよ。

克也

ああ、俺も老けてる。

徹

けど僕、入学式の時、ちゃんと高校生に見えてたって、

克也

いいや、お前は入部してきた時からそんなだったぞ。それに、部室の磁場がゆがんでるなら全員老けてるはずだろ、けど三好はちゃんとギリギリ高校生に見えるじゃないか。

静・雪乃・徹

本当だ。

雪乃

けど、それは三好部長がかっこいいからじゃないですか？

静・克也・徹
え？

雪乃
え、部長かつこいいでしょ？

静
もしかして雪乃、部長のこと。

雪乃
いや、そんな、ただその、かつこいいなってだけで。

静
恋をしたら鐘が鳴るらしいわよ。

雪乃
鐘？

静
うん、クラス的女子達が言ってた。この辺でリンゴンリンゴンって鐘が鳴ったって、

雪乃
まだ鳴ってない。

静
じゃあ恋じゃないわね。

雪乃
うん、けどもし鐘が鳴ったら静にだけには言っわね。

静
わかった、誰にも言わない。そして全力で応援する。

克也
誰にも言わないって、全部聞こえてるぞ。

静・雪乃
はっ、しまった！

克也
そんな馬鹿な事ばかり言っていないで、俺達三年がいなくても練習しとかないと駄目だろ。これからも進路のことでこうやってちよくちよく遅くなるんだから、

雪乃
三年生は大変なんですね。

克也
これはお前たちが三年になって苦労したらいけないから教えておいてやるけど、進路で漠然とした夢を言つと怒られるぞ。

静・雪乃・徹
どういう意味ですか？

克也
君の希望は？って聞かれたから、俺の将来の夢は寄席をすることですって言ったんだよ。そしたら、何言ってるんだ、進学が就職聞いてるんだよって怒られて、

徹
克也先輩寄席がしたいんですか？

克也
ああ、毎日落語が聞けるだろ。

徹
やりたいんじゃないかって聞きたいんですね。

克也
でもそんなこと言つと怒られるんだ。

雪乃
私はかわいいお嫁さんになりたいです。

克也
だからそういうのは駄目なんだって、

雪乃
けど将来の夢ですよ。

徹
僕は落語家になりたいです。

克也
だからそういうのは駄目なんだって。

徹
落語研究会に入ったのに？

静
私は鉄板焼き屋がやりたいです。

克也
だからそういうのは駄目なんだって、

静
え、こんなに具体的なのに、

雪乃
鉄板焼き屋って、静お好み焼き屋さんがしたいの？

克也
おい、そっちに話広げなくていいから、

静
違つわよ、鉄板焼き屋、鉄板で色々焼くの、鉄板いっぱい焼いて食べるの。

徹　え？売るんじゃないで自分で食べるんですか？
雪乃　それ鉄板焼き屋じゃなくて、鉄板で焼いた物食べる人じゃない。
静　お客さんも食べるのよ。で、たまにはどっちがいっぱい食べれるか競ったりして、
徹　それ、フードファイターじゃないですか？
克也　だからそっちに話広げんなって。
雪乃　私、静は絶対服作の仕事がしたいんだと思ってた。ほらこの間みんなの衣装にもフリルつけてくれたでしょ。
静　ああ、それもちよつと迷ってるんだけどね。
克也　あれ、三好怒ってたぞ。
静　え？部長が？
雪乃　かわいかったのになんですか？
克也　伝統ある高崎高校落語研究会のはっぴに、変な物つけたの誰だって、

高崎高校落語研究会部長、三好隆弘来る。
高校生の三好隆弘は、三好麻美にそっくりだ。

三好　遅くなつてごめん、
雪乃　あつ、三好部長、
静　すみません部長、私は良かれと思って、
三好　え、何の話？
克也　ほらはっぴの、
三好　って、あれ？全然練習してなかったのか？
克也　いや、違つんだ、進路決定の大変さを伝えてるのにこいつらが、って、お前はなんて言つたんだよ？
三好　なんてって？
克也　だから進路。
三好　俺は、絶対将来大学の落研に入りたいから。
徹　落語家になりたいんじゃないで、落研に入りたいんですか？
三好　そう、落研に入るのが俺の夢だから、
静　うわー、今まで聞いてきた夢の中で、断トツ変ですね。
雪乃　うん。
克也　怒られただろ。
三好　なんで怒られるんだよ。事前に落研のある大学調べて、その大学名言ったら、じゃあその中のここなら行けるだろうみたいにな話になって、
克也　ええー！そんなのでいいんだ。
三好　いいから練習するぞ、今日は松村先生も見に来るって言ってたから、

高崎高校落語研究顧問の松村先生、来る。

それは近藤にそっくりだ。

松村 おはよう。

部員達 松村先生、おはようございます。

松村 どう？練習進んでる？

三好 それが、進路指導があつて、僕が今来たところで、

松村 そう、三年生はこれからもつと忙しくなるだろうけど、文化祭は引退寄席にもなるんだから頑張りましょうね。

三好 はい。

克也 はい。

松村 けど、まだはじめてなかったんなら丁度良かったわ。今日は鳴り物の練習したいと思つてたから。みんな自分の担当の楽器の準備して、

部員達 はい！

部員達はそれぞれに楽器の準備を始める。

何故か準備の途中、静はブルーシートの中に。

雪乃以外の姿が消えて、徹の吹く鳴り物の笛の音が響く。

その笛は次第にやかんの沸騰を知らせる音に変わり、

長子がお盆にお茶とお菓子をおセットして来る。

そこは長子の家。

長子 すみません、話の途中で。

雪乃 いえそんな、

長子 やつとお湯が沸いて（と、お茶とお菓子を出しながら）これ、おもたせで失礼ですが、

雪乃 ありがとうございます。

長子 夫の学生時代の話も聞けて嬉しいです。けど、高校で落語研究会つてめずらしいですよ。

雪乃 まあ部員は毎年一人か二人しか入らなかったから、いつも廃部の危機にさらされてたんですけど、顧問の先生が上方落語好きだったみたいで、だから私達、関西弁でやってたんですよ。

長子 へええ。夫は大学でも落研で、

雪乃 ですよね。だって三好部長の夢、大学の落研に入ることでしたから。

長子 そういふの夢って言つんですかね。

二人、笑う。

雪乃 今思えばですけど、あの頃みんなであれになりたいこれになりたいって話した夢、全部かなってるんですよ。

長子 それ、結構凄い事ですよ。夫の落研は置いて、

雪乃 まあ、本当に凄いののは落語家になった徹君だけだろうけど、

長子 亡くなった鈴野さんご夫妻も、落語の聞ける鉄板焼き屋やるなんて、

雪乃 そうですね…。店をやったのは十年間くらいかな…。私が北海道に引っ越してか

ら克也先輩が病気になるってやめるって聞いて、でも病氣も治ったし、克也先輩も新

しい仕事初めて、自分もコスプレ衣装作って結構儲かってるからもう大丈夫って言

ってたのに、結局、克也先輩が亡くなって、

長子 再発したんですよね、癌が。

雪乃 ええ。

長子はメモを持ち、

長子 じゃあ、雪乃さんが最後に静さんに会われたのは、

雪乃 …一つお聞きしてもいいですか？

長子 はい。

雪乃 その、どうして静の事をモデルに小説を書きになろうと思われたんですか？

長子 …それは、その、なんて言うか…、上手く説明出来ないんですけど…、あんな風に亡くなる人には見えなくて、

雪乃 え？

長子 って、ほとんど知らないのにすみません。

雪乃 いえ、

長子 決して興味本位でという事じゃなくて、いや、結果的に興味なんですけど、でもお金がなくなった訳でもないのに餓死するなんて、どうしてそんなことになったのか知りたくて、

雪乃 私も知りたかったから良かったです。

長子 え、

雪乃 きつと、こうして奥さんが話を聞かせてくれて仰らなかったら、自分から部長何か知りませんかかって聞きに came ました。…あの静がどうして死体が溶けてなくなるまで誰からも発見されないような死に方をしたのか。…あの子食いしん坊だったから、蛇含草でも食べたのかしら。

長子 蛇含草？

雪乃 ごめんなさい、そういう落語があるんです、人を溶かしてしまう草が出てくる。なんだか、そんな風にも考えないとまだ信じられなくて、

長子 地域と交流があっても、一人暮らしだと、そういうこともあるんですかね。

雪乃 一人暮らしじゃなかったんです。

長子 え、けど、旦那さんは、

雪乃

長子

もう一人いたはずなんです。私が引越してからのことだから詳しくはわからないんですけど、
もう一人って？

麻美来る。

麻美

ただいま。

長子

ああ、おかえり。

雪乃

（麻美を見て）部長？！凄いなんにも変わってないじゃないですか？！高校生の時から異常に若かったけど、いや、当時は年相応だったのかな…。それにしたって、静の結婚式で会った時はもっとちゃんと年とってたのに、どうしてまた若返ってるんですか？！

麻美

あの、

長子

娘です。

雪乃

え？

長子

娘の麻美です。ほら麻美、お父さんの高校時代のお友達で岸本雪乃さん、お母さんの小説の為に話聞かせて貰ってたの。

麻美

はじめまして、

雪乃

あら、はじめまして岸本です。って、そりやそつですよ。いくらなんでも部長がこんなに若い訳ないですもん。けど、本当に高校時代の部長にそっくりでびっくりしました。

隆弘、来る。

隆弘

ただいま。

長子・麻美

おかえり。

隆弘

あつ、雪乃、悪いなわざわざ来てもらって。

雪乃

え？部長？！そんな、どうしてこんなに（麻美を指し）かっこよかったのが、そんなことになってるんですか？

隆弘

そんなことってなんだよ。

雪乃

だって、

隆弘

年とったら誰だって、って、お前全然変わってないな。

雪乃

そんなこと、私も年とりましたよ。この辺だつてこの辺だつて、逆に高校生の時めちやくちや老けてたもんな。

隆弘

ちよつと、

雪乃

二人は笑う。

隆弘
雪乃

しかし本当にごめんな。うちのがどうしても取材したいって言つから、それは全然、こっちに帰って来ることになったからその準備もあつて、ちょこちょこ帰ってきてるし、私も静の事、誰かと話したかったから、そうか、今回たまたま来てたんじゃなくて、戻って来るのか。

隆弘
雪乃

ええ。

隆弘

じゃあ、もう少し早かったら、

雪乃

え、

隆弘

いや、なんでもない。

雪乃

いえ、私もそう思います。

隆弘

…。

雪乃

けど、部長の奥様が小説家だなんて、全然知りませんでした。

長子

いえ、

麻美

違います。

隆弘

うん、それは違う。

雪乃

え？

長子

タマゴです。

麻美

妄想です。

雪乃

ええ？

隆弘

その、ちよつとした趣味で小説書き出ただけで、だから余計申し訳ないとは思つたんだけど、いい機会だしみんなが集まったらなつてもあつて、そうだ、松村先生ももうすぐ来るんだ。

雪乃

えええ、松村先生、生きてるんですか？

隆弘

生きてたんだ。

雪乃

当時、四十代後半だったとしても、

隆弘

いや、五十は過ぎてたよ。

雪乃

じゃあ、今八十…、

隆弘

今年で丁度九十だって、

雪乃

九十？！

隆弘

あと、スターはほら、スターだからスケジュールの都合で今日は無理だけど、また来るってさ。

雪乃

スターも？！

長子

スター？

雪乃

ああ、さっき言つてた落語家になった後輩です。私達は敬意をこめて、スターと呼んでるんです。

長子

へえ。

隆弘

だから俺、ちよつと松村先生駅まで迎えに行ってくるよ。本人はグーグルマップで来れるって言つてたんだけど、流石に心配だから。

雪乃

九十でグーグルマップ。私も一緒にいいですか？

隆弘 ああ、俺だと顔わかんないかもだから、高校の時からなんにも代わってない雪乃が
いてくれたら助かるよ。

雪乃 だから変わってますって、

長子 (隆弘に) 水炊きの用意はしてるんだけど、お寿司もとうるか？

隆弘 そうだな。ついでにケンタッキーも、

長子 わかった。

隆弘と雪乃行く。

長子 (雪乃に出していたお茶を片付けながら) えっと、お寿司とケンタッキーと、
麻美 なんか手伝う事ある？

長子 じゃあお酒買ってきて、もし足りなかったらあれだから。
麻美 わかった。

麻美行く。

長子 ケンタッキーはどれぐらいいるのかな…、それから…。

長子は自分のとっていたメモに目をやり、

長子 …一人暮らしじゃなかった…もう一人いた…。どういうことなんだろう。

長子はお盆を持って台所へ。

静が入ったブルーシートが動く、ブルーシートの中から起き上がる静と、
もう一人、赤崎美紀が現れる。

二人はなぜか宝塚のラインダンスで着るダルマ風の服、もしくは耳の無い
バニーガールのような服を着ている。
そこは静の家のようにだ。

静 やっぱこれ(服)無理だって、美紀はいいけど私いくつだと思ってるのよ。

美紀 だから、仮面かぶるから大丈夫だって、

静 いや顔隠しても、肉はダルダルしてるし、そもそも肌がもつ、

美紀 自分で作った癖に。

静 それは、マジックバーの店員でマジシャンのアシスタントもする衣装作れって言う
からで、まさか自分が着ると思わないじゃない。

美紀 よその人を雇うお金なんかないでしょ。

静 そりゃそうだけど…、わかった、作り直す。袖つけて、スカートもつける。

美紀 これで充分なのよ。

静 美紀 静

だからそれは若い子が着る場合でしょ。
ねえ静、お昼ここに行きたい。
何？

美紀はスマホ画面を静に見せる。

静 美紀

カツ丼屋さん、いいわね。私揚げてる肉が一番好き。
知ってる。

静

美味しいの？

美紀

味じゃなくてちよつと変わってて、マジックバーの参考になるかなって、
なんでカツ丼屋がマジックバーの参考になるのよ。

静

味とかメニューじゃなくて、その女将さんが変わってて、お客さんの好きな物を
当てられるんだって、

静

好きな物？

美紀

そう、バイトで一緒だった人が行った時も、あなたはとにかくが好きでしょって、
ピタリと当てられたって、

静

ん？

美紀

凄いでしょ。

静

いや、とんかつって何よ、カツ丼屋さんに来てる客の九十九、九%はとんかつ好き
でしょ。むしろとんかつ嫌いでカツ丼好きなんですって人、見たことある？

美紀

え？まあそう言われたらそうだけど、その当て方が凄いの。生霊を見て当てるんだ
って、

静

生霊？

美紀

そう、その人についてる生霊が、好きな物を教えてくれるんだって、

静

それ逆じゃない？

美紀

逆って何が？

静

だって、好きな物なんか当てて貰わなくても自分でわかってるでしょ。

美紀

うん。

静

ついてる生霊当てるって言うならまだわかるけど、自分でわかってること教えても
らってどうすんのよ？

美紀

そう言われれば、そうか、

静

そもそも生霊って何？ 守護霊じゃなくて？

美紀

うん、生霊。

静

生霊ってことは生きてる誰かってことでしょ。その誰かは誰なのよ？

美紀

それはわからないけど、

静

いや、知りたいのむしろそっちでしょ。

美紀

そうか…、そうよね。

静

まあ、美味しいなら食べに行ってもいいけど、

美紀 いや、味は全然らしい。
静 なんて行こうって言ったの。

美紀 だから、私もマジックバーうまいかせなきゃって、心配で、心配ならそんな馬鹿な話に飛びついてないで、早く食品衛生責任者の資格とって来いって言うてるでしょ、講習受けるだけでいいんだから。食品衛生協会のホームペー

美紀 ージ見て開催日調べたの？

静 まだ、
だったらそれを先にやりなさい。

美紀 わかった、今調べる。

静 うん…。それと私の渡したお酒の仕入先に電話した？

美紀 まだ、

静 なんて？

美紀 ホームページ見て、開催日調べたらする。

静 うん…。ああ、けどなんか口がカツ丼になったな。お昼カツ丼作ろうか？

美紀 うん。絶対その店のより静が作った方が美味しいと思う。

静 豚肉あったかな。

インターホンの音響く。

静 誰だろ？

静、玄関へ行くこうとして、

美紀 その格好で出るの？

静 ！本当だ。

近藤来る。

近藤 ちょっと鈴野さん入るわよ。

近藤は静の着ている服を見て、

近藤 何してんの？

静 いや、違つたよ近藤さん。これはお店の制服だね。

近藤 お店って、旦那さんの病気でやめたのに、またやるの？

静 いや、私がやる訳じゃなくて、えっと…、話せば長くなるけど、とにかく頭がおかしくなったり、変な趣味がある訳じゃないから安心して。

近藤 わかった。とりあえずその前にトイレ借りていい？

静

どうぞ。

近藤トイレへと行く。

静

(美紀に) ちょっと、今のうちに着替えるわよ。

美紀

うん。

と、二人共背中の方スナーを下ろそうするが、中々できない。

静

駄目だ、(美紀に) ちょっと後ろ向いて、

静は美紀の方スナーをおろす。

美紀

(静に) 後ろ向いて、

静が美紀に背中を向けると、

近藤が戻って来る。

美紀

私、向こうで着替えてくる。

美紀、奥の部屋へと行く。

静

え、ちょっと！(近藤に) あは、

ごめんね、家隣なのに来ていきなりトイレ借りちゃって、インターホン押してから急にしたくなっちゃって、

普通よ普通、もう頻尿と残尿感の毎日だもん。うちの夫なんかトイレから出てこいまできて、そのままユーターンしてまたトイレ行ったりするんだから。

一度出てくれるだけいいじゃない。うちなんかそのままズーっと入ってるからいつもトイレの取り合いよ。

なんか、長い間トイレでボーっとするの身体によくないってテレビで言ってたわよ。

え、なんで？

腸が出ちゃうんだって、

トイレに座ってるだけで？

そう。多分だけど、

多分なの？

テレビでチラチラッと見ただけだから、

へえ……。それで、その格好は何？

え？

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

近藤 ああ、コスプレの衣装か、売る前に試着するの？
静 いや、これは、売り物じゃなくて、
近藤 え？

まだ着替え途中の美紀、静の上着を持って来る。

美紀 静、

と、持って来た上着を静に渡す。

静 (受け取り) いや、下、下も持ってきて、
美紀 わかった。

美紀行く。

近藤 最近いつもいるけど、親戚の子か何かなの？
静 いや、友達…かな。
近藤 友達？

知り合いの落語家さんに頼まれて演芸会の手伝いに行った時に、あの子も出てたマジシャンに頼まれて来てたのよ。

ふーん、で？

で？だから、そこで知り合って、

へえ。で？

で？私マジックバーがやりたいんです。なんて言ったら、マジックバー？

うん。好きなんだってマジックが。あ、これも(着ている服そのマジックバーの制服なの。

へえ。で？

で？いや、私も昔鉄板焼き屋だけど飲食やってたのよなんて話になって、うん、で？

で？ほら、店を始める時のあれやこれや聞かれてるうちに、仲良くなったのよ。

へえ。けど、ずっといるわよね。朝も夜も。

そうね、ずっといるわね。ていうか…、住んでる。

やっぱりそうよね。

いや、私も最初はそろそろ帰ったら。なんて言ってたんだけど、なんか、慣れてきた、みたいな？

慣れてきたって何よ。旦那さんは？何も言わないの？

近藤

静

近藤

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

近藤

静

もちろん、まだいるのか、いつ帰るんだ、なんて言ってたわよ最初は、けど、これまたなんか慣れてきた、みたいな？

近藤 静

だから、慣れてきたって何よ。

まあ、うち子共もないし、そのマジックバーの場所借りるのでいろいろ大変みたいだし、それにさ、私も店やる時に色んな人に助けてもらったから、今度は助ける番なのかなって。そっだ、もうすぐオープンするから見に来てよ。

着替えた美紀、スカートを持って来て静に渡す。

静

ああ、ありがと。

美紀、行く。

近藤

…まあ、良かったわ。

静

何が？

近藤

知らない子がずっといるから、ちょっと心配してたんだけど、元気で楽しそっで、いや、元気だからこんな格好してる訳じゃないのよ。けどまあ、そっね、楽しいかな。

近藤

実は私、引越すことになって、

静

引越す？なんで？

近藤

夫の親がね、九州にいるんだけど、一人暮らしはそろそろ無理なんじゃないかってことで、

静

じゃあ、九州に行くの？

近藤

そっなの。

静

いつ？

近藤

来月の頭、

静

すぐじゃない。

近藤

うん、こっちに引き取ればとも思ってたんだけど、やっぱり住み慣れたところがいみたいで、って、私だって住み慣れたところがいいんだけどさ。まあ、仕方ないのよ。

静

そっか…。自分の親ならまだしも、大変ね。

近藤

鈴野さんも旦那さんのお父さん見てるもんね。

静

見てるって言ってもまだ一人で暮らしてるし、月に何度か病院連れて行くぐらいだから全然だけど、まあいずればね。けどほら、病院行く時なんか、あの子も手伝ってくれてるから。

近藤

そう。まあ、私達もそっいう年になったってことよね。

静

老老介護ね。

近藤

それは老夫婦でお互いを見るやつじゃないの？

静　　そつか。あつごめん、コーヒー飲むでしょ。
近藤　いいのいいの、引越しのこと報告しに來ただけだから、もう帰るわ。
静　　そう。なんか準備とか手伝える事あったら言つてね。
近藤　ありがとう、じゃあまたね。

近藤行く。
その様子を伺っていたかのように、美紀来る。

美紀　お隣、引越すんだね。
静　　うん、寂しくなるわね。
美紀　なんでよ、私がいるでしょ。
静　　え、…まあそつか、よし、カツ丼作るか。…こういう時は美味しい物いっぱい食べないとね。
美紀　うん。けど静、いつもいっぱい食べてるわよ。

等と言いながら静かと美紀行く。
と、パジャマ姿の長子が、手にマグカップを持ってやって来て、何かを書き出す。
そこは再び、長子の家のようだ。
麻美、来る。

麻美　あれ、起きてたの？
長子　うん、今日はいろいろ話が聞けたからなんかちよつと書きたくなって、けど眠いからコーヒー入れて、眠いなら寝たら、
麻美　そうなんだけど、みんなの話を聞いた今、書いておかなきゃみたいなものがあるのよ、作家魂つてやつかな？
長子　違つと思うけど。…面白かったね、お父さんの学校の人達。まさか最後にみんな順番に落語始めるとは思わなかったけど、
麻美　懐かしかったのよ。ほら、陸上部の人が久しぶりに会って、じゃあ走ろうかってなるみたいなものじゃない。
長子　陸上部の人そんなことしないと思うけど、
麻美　…うーん、けど逆に気になることも増えたな、
長子　気になることって？
麻美　話を聞けば聞く程、お母さんのイメージ通りで、
長子　その小説のモデルにしたい人が？
麻美

長子

うん。だからやっぱり結びつかないって言うか…。例えばだけども、もし誰かが殺して、殺されたってわからないくらいゼーんぶ腐って溶けるまで隠してて、家に戻した、なんて事ないのかな？

麻美

殺人ってこと？

長子

そう。

麻美

それはいくらなんでもわかるんじゃない？

長子

そうか…。ねえちよつと読んでみる？

麻美

今から？私トイレに起きただけなんだけど、

長子

いいじゃない、ちよつとだけ、

隆弘来る。

隆弘

なんか薬ないかな。

長子

え？なんの薬？

隆弘

お腹が痛くて、

長子

大丈夫？食べ過ぎたからじゃない。

インターホンが響く。

長子

誰かしら、こんな遅くに。ちよつと麻美、お父さんお願い。

麻美

お願いって？

長子

その薬箱に胃薬入ってるから、

麻美

わかった。

長子行く。

隆弘

痛い、お腹が痛い。

麻美

（胃薬を探しながら）あんなに食べるからよ。

隆弘

ああそうだ、これは食べ過ぎだ。

麻美

はい、胃薬。

と、麻美は隆弘に胃薬を渡そつとするが、

隆弘

こんなんじゃ駄目だ。頼む、蛇含草を取って来てくれ。

麻美

何それ？

隆弘

壺算山の頂上にだけ生えてる薬草で、

麻美

薬草？

隆弘

ああ、普通の人には知らないだろうけど、お父さんは落研だったから知ってるんだ。

は？

そうだ落語家を連れていかなくちゃな。プロでないときつと壺算山には入れてくれないから。

本当に痛いんなら、ふざけてないで救急車呼んだ方がいいんじゃないの？
こんなに痛いのにふざける訳ないだろ。

長子、徹を連れて来る。

あなた！

遅くなつてすみません、部長！

徹、来てくれたのか。

事情は奥さんから聞きました。お世話になった三好部長の為です。僕が娘さんと一緒に壺算山に行きますよ。

え？

麻美、お母さんからもお願い。徹さんと一緒に蛇含草を取って来てちょうだい。
ちよつと三人共何言つてるの？

徹と一緒に行ってくれば大丈夫だ。

まあ、僕は本物の落語家ですからね。

って、あの、本気で言ってるんですか？

(同時に) もちろんよ。

(同時に) もちろんだ。

(同時に) もちろんです。

ちよつと待つてよ、

麻美、お前ならきつと行ける。

頼んだわよ麻美、

じゃあ行きましよう。蛇含草を取りに、壺算山に！

徹のその言葉で、長子と隆弘の姿は消え、

辺りは壺算山への道中に変わる。

え、ええー？

さあこつちだよ。

二人は壺算山に向かいながら、

そうだ、麻美ちゃんはじめまして、お父さんの高校時代の後輩の石田徹です。
はじめまして娘の麻美です。お噂はかねがね、

危険な旅になるだろうけど大丈夫、落語家の僕がついているからね。

麻美 危険で、そんなに険しい山なんですか？そもそも落語家と登山って、
まずは、関所を通過しないと。

徹 関所？

徹 関所とは、交通の要所に設置された徴税や検問の為の施設で、単に関とも言った。
関所の機能には軍事的目的、防衛とか、警察的目的、治安維持とか、経済的目的、
交通料徴収とかもあって、陸路、つまり街道上に設置された関所は道路関、海路に
設置された関所は海路関とも呼ばれて、

麻美 いや、関所の意味を聞いているんじゃないくて、その…山に登るのに、そんなところ通
らないといけないんですか？

徹 大丈夫、僕は落語家だから、

麻美 だから、そのところがよくわからないんですけど、なんで登山家じゃなくて落語
家なんですか？その山には落語家しか登れないってことですか？

徹 そんなところに登る落語家はいないね。

麻美 え、どういうこと？

徹 ほら、着いた、関所だ。

麻美 早っ。

関所の紀美が来る。

それはとても美紀に似ている。

徹 すみません、こんな時間に、

関所の紀美 なんのご用でしょうか？

徹 実は、蛇含草を手に入れたくて、

関所の紀美 蛇含草？なんですかそれは？

麻美 え？（徹を見る）

徹 （紀美に）いや、蛇含草ですよ、この壺算山の頂上に生えている。

徹 ちよっと聞いたことないですね。まあ、何時でも入山可能ですけど、夜道は危ない
から、明日の朝にされた方がいいんじゃないですか？山頂遊園地もレストランも十
時から十九時までしか開いてませんし。

麻美 （徹に）どういうことですか？

徹 （紀美に）本当に蛇含草を知らないんですか？

麻美 よくわかりました。確かに父も母も酔ってました。そしてあなたも何処かで飲んで
からうちに来たんですね。（紀美に）本当にこんな遅くにすみませんでした。（徹
に）さっ、薬局でよく効く胃薬買って帰りましょう。

徹 僕は、落語家です！

関所の紀美 な？！

麻美 え？

徹 これが、落語家協会会員、バッチです。

関所の紀美 失礼しました。蛇含草が必要なんですか？

麻美 え、ええー？！

徹 はい。

関所の紀美 危険な旅になりますよ。

徹 わかっています、けど学生時代の先輩が大変な状態なんです。

麻美 あっ、大変な状態って言ってもただの食べ過ぎで、

関所の紀美 食べ過ぎ？！

麻美 ええ、だからそんな大袈裟な草を取りに行かなくても、

関所の紀美 だったら、蛇含草を取りに行くしかないですね。

徹 ええ。

関所の紀美 わかりました。

麻美 全然わからない。

関所の紀美 この関所を通ってまっすぐ歩いていくと、道が二つに分かれます。標識に従わず必ず左の道に進んでください。でないと頂上へは行けませんから、ただ、左に進むと山賊も出るでしょう。

麻美 は？

関所の紀美 それに魔物も沢山。

麻美 魔物って、

関所の紀美 頂上までは、馬車でも二週間はかかるでしょうね。

麻美 馬車でも二週間？いやいやいやいや、私休暇で実家に来てるだけで、それにどう考えても二週間後には食べ過ぎ治ってるでしょ。

関所の紀美 そんなにお急ぎなら、ロープウェイで登られたらどうですか。

麻美 え？そんなのあるんですか？

関所の紀美 ええ、皆さん大体途中まではロープウェイで行かれます。

麻美 どうしてそれを先に言わなかったの？

関所の紀美 ロープウェイを降りたら時うどん製麺所があつて、

徹 壺算山の時うどんと言えは、結構有名ですよね。

関所の紀美 ぜひ名物時うどんを食べていってください。

麻美 名物？

関所の紀美 時うどん製麺所を越えるとすぐにすみれ畑が広がっています。あそことても美しいですよ。

徹 楽しみです。

麻美 ピクニックコース？

関所の紀美 そして、すみれ畑をまっすぐ進むと黄泉の洞窟があります。

麻美 また急に怖くなった。

関所の紀美 洞窟を抜けると、まあ、面倒臭いので後は標識に従って進んでください。

麻美 いい加減ね。

関所の紀美 では、ロープウェイの料金、お一人様七百円です。

徹 ペイペイいますか？

関所の紀美 大丈夫です。

麻美 ええ？

関所の紀美 今の時間なら、ちょうど朝日が昇るところを見れるかもしれませんよ。

徹 それはありがたい。

麻美 やっぱ観光？

関所の紀美 では、どうぞ道中お氣をつけて、

徹 行こう！麻美ちゃん！

徹は麻美を連れてロープウェイに乗り込む。

と、大きな鳥が飛んで来てくる。

それは鳥の格好をしているが、麻美の父、隆弘にそっくりだ。

徹 巨大な鳥が飛んできた！

麻美 巨大な鳥？どう見ても人間でしょ。しかもおじさん、

徹 危ない！こっちに来る。巨大な鳥がロープウェイの屋根にとまった！

麻美 いや、だから鳥じゃないですって、

徹 安全だと思っていたロープウェイも、危険なのかもしれない。

麻美 って、お父さんじゃない！何してるのこんなところで？お腹もう大丈夫なの？元氣になったから迎えに来てくれたの？

徹 全然動かない、ハシビロコウかもしれないね。

麻美 何言ってるんですか、父です。あなたの先輩の。

徹 やっぱハシビロコウだな。

麻美 そもそも、ハシビロコウは飛ばないでしょ。

徹 いや、ハシビロコウは動かないことで有名だけど実は飛ぶんだ。それにそれを言うなら麻美ちゃんのお父さんは飛ばないだろ。

麻美 それはそうですが、どう見ても父でしょ。

徹 けど、ハシビロコウなら大丈夫だよ。ハシビロコウはペリカン目ハシビロコウ科ハシビロコウ属に分類されるペリカンの仲間で、主に中央アフリカの熱帯部に

鳥一 ホーホケキョ！

徹 ウグイスだ！

麻美 は？

鳥一 ホーホケキョ、ホケキョ、ホケキョ、

徹 危ない離れて、まさかウグイスだったなんて、

麻美 ウグイスだったらなんなんですか？

徹 駄目だ仲間を呼んでる。

麻美 仲間？

徹 このままでは大変な事になってしまっ。

麻美 大変なことって？仲間を呼んだらどうなるんですか？
徹 仲間を呼んだら仲間のウグイスが来るんだよ。ああ！仲間のウグイスが来たー！

と、仲間のウグイスが来る。

鳥二 ホーホケキヨ、ホーホケキヨ。
徹 あれが仲間のウグイスだ。
麻美 それで？どうなるんですか？
徹 たぶん、求婚する。
麻美 求婚？
鳥一 結婚してください！
鳥二 はい！
麻美 え、何これ？
徹 やっぱり求婚した。しかも答えはイエスだ。
麻美 だからなんなんですか？
徹 これから二羽の結婚生活が始まるだろうね。
麻美 いや、その何が大変なんですか？
鳥一 新居に引っ越ししよう！
鳥二 はい！

鳥達は仲良く飛んでいく。

麻美 …行っちゃいましたよ。
徹 ああ、恐ろしかった。
麻美 どこが？

と、ロープウェイは到着し、二人は降りる。
辺りに朝日が差し始める。

徹 夜明けだ、先を急ごう！
麻美 ロープウェイを降りたら、時うどん製麺所ってのがあって言っていましたよね。
徹 ちょうどいい、うどん朝ご飯にしようか。
麻美 今、急ごうって言いませんでした？
徹 けど名物なんだよ。
麻美 まあ、せっかくだし私もうどんは食べてもいいですけどね。
徹 僕はきつねうどんにするよ。
麻美 もう決めてるんですか？

と、山賊一、二、三、飛び出てくる。
それは静、雪乃、克也によく似ている。

山賊一 野郎共ついに見つけたぜ。

山賊三 おー！

徹 山賊だ！

麻美 ええ、本当にいたの？

徹 こんなにすぐに襲われるとは、

山賊二 お頭！

山賊一 なんだ。

山賊二 こんな雑魚、俺一人で充分であ、

徹 麻美ちゃん僕から離れないで、

麻美 はい。

山賊一 その前に（山賊三に）お前さっきどこ行ってた？

山賊三 すみません！どうしてもカントリーマアムが食いたくて、

徹・麻美 カントリーマアム？

山賊一 食ったのか？

山賊三 食いました！

山賊一 トースターで焼いて食ったんだろうな？

山賊三 トースターで焼いて食いました！

山賊一 カントリーマアムはトースターで焼くと、外はカリカリ、中はトロトロ、めちゃく

ちや美味しくなるぞ。

山賊三 へい！

麻美 何の話してるの？

山賊二 お頭！

山賊一 なんだ。

山賊二 カントリーマアムをトースターで焼いたら美味しくなるって言うのは初耳であ。

山賊一 じゃあ、お前はトースターで焼いて食ってないのか？

山賊二 へい！

山賊一 なんてこった、カントリーマアムをトースターで焼きに行くぞ！

山賊三 おー！

山賊達はカントリーマアムをトースターで焼きに行ってしまった。

徹 ふう、なんとか無事にやり過ごせたね。

麻美 今の本当に山賊だったんですか？ただのカントリーマアム好きのおじさんとおば

さんじゃないんですか。

と、今度は、時うどんの従業員達、足を高く上げるように走りながら来る。
それは、長子、近藤、美紀によく似ている。

徹　また誰か来た。

麻美　え、

うどん達　私達は、その時うどん製麺所の従業員です。

従業員達は喋りながらもずっと足踏みしたままだ。

麻美　ちょうど良かった、今行こうと思ってたんです。

うどん一　従業員募集のチラシを見て、来てくれたんですね。

うどん二　面接はありませんよ、

うどん三　即、採用されます。

麻美　いえ、私達はうどんを食べようと、

徹　きつねうどんです。

うどん一　え？

うどん二　もしかして、

うどん三　お客さんですか？

徹　そうです。きつねうどんを食べに来たんです。

麻美　わざわざうどんを食べに来たみたいに言わないでください。蛇含草を探すついでに
食べるんですよ。

徹　ああ。けどきつねうどんは食べます。

麻美　あの、どうしてずっと動いてるんですか？

うどん一　私達はずっとこうして足でうどんを踏んでいるので、
休憩時間になってもすぐには足が止まらないんです。

うどん二　人手不足なんです。

うどん三　結構フラックだな。

徹　だからうどんは食べないで下さい。

うどん二　これ以上私達の仕事を増やさないでください。

うどん三　今日の出荷分で手一杯、いえ、足いっぱいなんです。

麻美　けど名物だって、

徹　もう口がきつねうどんになってるし、

うどん一　今、何時だい？

うどん二　あつ休憩時間が終わる。

うどん三　絶対、絶対来ないでくださいね。

従業員達は足踏みしながら行ってしまう。

麻美 ……食べに行きにくいですね。

徹 きつねうどん食べたかったのにな…。仕方ない、僕が持ってきた赤いきつねを食べよう。

麻美 え、なんでそんなの持ってきてるの？

徹 そうだ、すぐに美しいすみれ畑があるって言ってたから、そこで食べようよ。

麻美 目的変わってきてませんか？

徹 と、思ったらもうすみれ畑だ。本当に綺麗だな。よし赤いきつねを食べよう。あっ！

しまった！お湯がない！

麻美 ええ！

と、突然「すみれの花咲く頃」の前奏が流れる。

徹 なんだ、この曲は？

麻美 どうせまた、変なもの出るんですよ。

と、すみれ畑の住人一が現れる。

すみれ畑の住人一は宝塚の男役のような格好をしていて、歌いだす。

すみれ一 ♪春すみれ咲き 春をつげる

徹 そうだね、出たね。

すみれ一 ♪春なにゆえ 人はなれを待つ

徹 いや何これ、

すみれ一 ♪楽しく悩ましき春の夢 甘き恋

宝塚の娘役のような格好をした、すみれ畑の住人二も現れ、歌い出す。

すれれ二 ♪人の心酔わすそは

徹 またきた。

すれれ二 ♪なれすみれ咲く春

麻美 素敵。

徹 え？

すみれ二 ♪すみれの花 咲く頃

徹 麻美ちゃん？

すみれ二 ♪はじめて君を知りぬ 君を思い 日ごと夜ごと悩みしあの日の頃

すみれ畑の住人三、四も来る。

もちろん、宝塚の男役と娘役のような格好をして、歌い出す。

すみれ達

♪すみれの花 咲く頃

徹

また増えた。

麻美

こんな素敵にところがあつたなんて、

すみれ達

♪今も心ふるう

徹

よく見て、全員おばさんだよ。

すみれ達

♪忘れな君 われらの恋 すみれの花咲く頃

麻美

徹さんごめんなさい、もう一緒には行けません、私はこのすみれ畑で暮らします。

徹

ええー！いや、それは違つよ、絶対違つ。

麻美

お父さんのことはよろしく、

麻美、すみれ畑の住人達と踊りながら行つてしまふ。

徹

ちよつと、麻美ちゃん……蛇含草を取りに行く麻美ちゃんを助ける為に来たのに、一人で取りに行くことになってしまった……、そもそも部長になんて言えば……、娘さんはおばさん達のいるすみれ畑に住むそうです。

と、いつかの関所の紀美が来る。

関所の紀美

あの、

徹

あれ、あなたは確か関所にいた、

関所の紀美

はい、紀美と言います。

徹

紀美さん。

関所の紀美

あなた達が蛇含草を探していると聞いて、ずっとつけて来たんです。

徹

ええ！

関所の紀美

ロープーウェイにぶら下がるのとっても大変でした。

徹

一体、どうしてそんなこと……、

関所の紀美

実は私も蛇含草が欲しくて、けど、一人では危険で取りにいないから関所でバイトしてあなたの様な落語家さんが来るのをずっと待ってたんです。どうか私もつれて行ってください。

徹

関所の紀美

えつと、それはいいですけど、今ちよつとそれどころじゃない事態が起こりまして、ていうか、つけてたんなら見てたよね。一緒に来た麻美ちゃんがおばさん軍団と、大丈夫です！決して足手まといにはなりません。むしろ長いことこの壺算山で働いていたし、頂上の手前にあるホテルには長いこと泊まっていたからそこまでの道のりは完璧で、きつとお役に立てると思います。

徹

ホテル？

関所の紀美

ほら、あそこが黄泉の洞窟の入り口ですよ。

徹

あ、なんか詳しい人が来て助かったな。

徹は関所の紀美に導かれるまま、黄泉の洞窟に入る。

徹

ここが黄泉の洞窟かあ、名前は怖かったけど結構明るいんだね。

関所の女

誰か来る。

徹

え、

克也の姿が見える。

克也

よう徹、久しぶりだな。

徹

克也先輩！どうして？

関所の女

お知り合いですか？

徹

高校の時の部活の先輩で。（克也に）でも克也先輩死んだんじゃないんですか？

僕お葬式にも行きましたよ。

そうなんだよ、俺、結構健康には自信あったんだけど病気になるちゃってさ。そう

だ徹、久々にプロの落語を聞かせてくれよ。

いや先輩、そんなことより、

私も聞いてみたい。

関所の女

今それと頃じゃないから、先輩死んでるって言うてるから。（克也に）そもそも死ん

だ先輩がどうしてこんなところにいるんですか？

克也

どうしてって、ここは黄泉の洞窟、死んだ人間しか暮らせないんだぞ。だからもう

一人一緒に住んでただけど、今は静と二人で暮らしてるんだ。

徹

え、

克也

ほら、あいつも死んだからな。

静の姿が見える。

静

徹君、久しぶり、

静先輩。じゃあ本当にここは…、けど、お会いできて嬉しいです。…亡くなったお

二人にこんなこと言いくいんですが、僕、赤いきつねを持ってきたのでお湯をい

ただけませんか？

ええ、いきなり？

静

それは出来ないわ。

徹

どうしてですか？

克也

俺達は死んだ、だからこれは過去の幻影なんだ。

あなたの希望を聞いてあげることも、会話することも出来ないの。

徹

今してますよね。会話。

静

…。

克也

…。

徹 そもそも、さっきお二人共、久しぶりって言っていましたよね。

静 …。

克也 …。

静 そうだ、病院から手紙来てたの見た？

克也 ああ、封が開いてたけど、中見たの？

徹 え、

静 ううん、間違えて開けちゃったけど、すぐかっちゃん宛てだって気づいたから見てない。

克也 そっか。

関所の紀美 なんか、さっきの会話がなかったかのように急に日常生活を始めましたよ。

徹 うん。

静 今日さ、向こうの銭湯の横の駐車場で無農薬野菜の販売会やってて、

克也 玉川温泉？

静 そう、だから新しいお隣さん誘ってみたの。そしたら、結構です、それより時々変な楽器弾いてませんか？うるさいんですけどって、

克也 変な楽器？

徹 あの前輩、

静 三味線のことだと思う。月に一回も弾いてないのにさ。

克也 けどまあ、気をつけた方がいいんじゃないか。

徹 そんなにお湯沸かすの嫌なんですか？

静 まあ三味線はね、だから、すみません気をつけますって言ったんだけど、ミシンの音もうるさいって、いやそれは商売なんだから仕方なくない、なんかモヤモヤしたから今日は大量のポテサラ作るわね。

克也 お前は嬉しい時も、悲しい時も、モヤモヤした時も、ワクワクした時も、大量の料理を作るな。

静 あっ、豚のしょうが焼きも作るから大丈夫だよ。

克也 何が大丈夫なのかはわからないけど、だったら余計にポテサラ大量に作らなくていいんじゃない？

関所の紀美 これ、いつまで続くんですか？

徹 わからない。

静 けどポテサラ美味しいから大量に食べるでしょ。まあ、なんでもいっぱい食べてれば元氣出るし、

克也 まあ、

静 え？

克也 俺に隠してることあるだろ。

静 隠してることって？

克也 だから、

静 なんでわかったの？

克也 いや、そりゃあ、封が、

静 そうなの、実は私は宇宙からきた変身型生物なの。

克也 え？

徹 は？

関所の紀美 ん？

静 ワープに失敗した私の宇宙船は、時空のゆがみに突入し、この地球のとある少年の

勉強機の引き出しと繋がってしまったの。宇宙船がなおるまで怪しまれずにこの地球に留まろうと地球人に親しまれている猫と言う生物への変身を試みたけど、私の猫知識が乏しかったせいで、色や形が不完全な物になってしまって、

克也 おい静、

関所の紀美 なんの話ですか？

徹 全くわからない。

静 私は仕方なく「自分は猫ではなく猫型ロボットであり、未来から君の将来を薔薇色にする為にやってきたのだ」と苦しい言い訳をした。けど何故か少年とその家族はあっさり信じて、私はその少年の部屋の押入れで暮らし出した。これでのんびり宇宙船を修理する事が出来ると思っていたんだけど、少年は毎日毎日やれ勉強が出来ないだの、運動が出来ないだの、ガキ大将に殴られたから仕返しをしたいだの、金持ちの子の持っているおもちゃが欲しいだの、かわいこちゃんと仲良くしたいだの、無茶苦茶な要求をしてきて。仕方なく私は、その都度宇宙から持って来た道具で助けてやった。そんな風に少年の悩み事解決に追われながらも、少しずつ宇宙船の修理をしていたある日、修理中の私に「何してるの？」と近づいてきたのは少年が密かに恋心を抱いていた、しずかと言う女の子だった。そしてその子は無防備に触った私の宇宙船の配線に感電し、あっけなく、死んでしまった。

克・徹・関所 ええー！

静 この事実を知ったら少年はどれ程悲しむだろう、確かに、弱虫でグータラなどうし

ようもない少年ではあったけれど、私を受け入れてくれた優しさや思いやり、時折見せる勇氣に好感を持ち、なにより、共同生活の中、確実に友情を育んできた大切な私の友なのだ。そんな友人の最愛の人を私は、殺してしまった。だから私は、友を悲しませない為に一つの決断をしたの。今度は、しずかという女の子に変身して暮らそうと。

克・徹・関所 ええー！

静 少年には、猫型ロボットは未来に帰ったと告げ、私はしずかとしての生活をはじめた。それから二十五年。私は、少年が望んでいた通り、しずかとしてその少年と結婚した。

と、壺算山の住人達が次々に現れる。

山賊三

しずかとしてその少年と結婚した！

鳥一
うどん一
すみれ三
麻美
六人
しずかとしてその少年と結婚した！
しずかとしてその少年と結婚した！
しずかとしてその少年と結婚した！
しずかとしてその少年と結婚した！
しずかとしてその少年と結婚した！

静と壺算山の住人達は舞い踊る、それはまるでロシアバレエ団の大フィナーレのように。

そしてその大フィナーレの終わりと共に、壺算山の住人達は帰って行った。

静
だから、私は、本物のしずかちゃんじゃないのよ、のびた君。

克也
誰がのび太君だよ！

静
この、来週のかっちゃんんの誕生日に披露しようと思って作ってたネタ、なんで隠してたのばれたの？

克也
いや、ばれてなかったよ。

静
え？

関所の紀美
誕生日会って、ネタするものなんですか？

徹
先輩ん家はそうなんじゃない。

静
けど、隠してる事ないかって、

克也
わかった。じゃあ、今度は俺の秘密を言っよ。

静
何？かっちゃんも誕生日用のネタ、おろすの？

関所の紀美
変な夫婦ですね。

徹
昔から変なんだ。

静
いいわよ、どうぞ。

関所の紀美
また長い話聞かされたり、変な踊り見せられたりするんですか？

徹
うん、きつと。

克也
ごめん、俺、再発したみたいだ。

静
…え？

暗転

第二場

普段着のままの徹が、落語「蛇含草」をはじめめる。

徹

■こんにちは。●おう、徳さんかいな。こっち入り。■暑いこってんなあ。見とくんはこれ。禪の上に麻の甚平一枚、こんな格好しても暑いんやさかい…。そこいくちゆうとアンタとこは風通しもええし、掃除が行き届いててキレイがな…ちよっとなんだんねん。せつかく褒めてんのに、こんなとこに汚ない草ぶら下げて。こんなもん捨てなはらんかいな。●いやいや、こらただの草と違つうや。蛇含草というて珍しいもんや。■蛇含草て何だんねん？●蛇が含む草と書くのやそうな。何でも山の奥深いとこに生えててな、その山奥に住んでるウワバミ…大蛇やなあ。大蛇もウワバミと呼ばれるようになったら魔物や、迷い込んできた獵師や山賊をガバーツと丸飲みすることがある。そうすると腹がこないふくれ上がってさすがのウワバミものうち回って苦しむ。その時にこの蛇含草をペロペロツと舐めると、腹の中の人間がすーっと溶けて、腹の張ったウワバミが助かるちゆうねん。魔除けになるとか言うので、こないしてぶら下げてあるんやがな。■つまり、ウワバミの腹薬！へえ、珍しいもんでんなあ。話のタネに、わたいにもちよっとおくなはれ。あれ？アンタ何してなはんねん？●いや、知り合いから餅をぎようさんもろてな、カビ生やしたらいかんやろ？焼いて食べよ思てな。■さやか。わたいた餅好きでんねん。一つよばれまっさ。●これこれ、勝手に手エ出す奴があるかいな。ワシが一つおあがりと言うてから食べなはれ。いや別に惜しいて言うてんのやないで。食べると言うのならこの餅箱の餅、みな食ってもかまへんけど…。■えっ？この餅箱の餅、みな食てもよろしいの？●よろしいので、こないぎようさんの餅が食えるかいな。■いや、わたい餅好きだんねん。これぐらい一人で食えますわー…。とこの男、意地張って餅箱の餅、一人でみな食てしもた。喉まで餅の詰まった身体で苦しみながら家へ帰ってきたこの男。■ただいま…。◆おかえり…どないしたんやアンタ、青い顔して。気分でも悪いんか？手エ引いたげるわ。ホレ、こち持ち。持ち。■モチモチ言うなあ！ちよっと奥の部屋、床とつて。わしや横になるさかい。そこピシャッと閉めといて。はあ、苦しい（手が蛇含草に触れる）蛇含草や。ウワバミが人間飲んで苦しい時にこの草食べたら、腹の中の人間が溶けて助かるちゆう…こらええもんもろてきたぞ。よし、これ食うて…。●おい、帰ってるか。ああ、そら良かった。いや、心配してたんや。こっちも意地になって餅食わせすぎてな。え？奥の部屋で、床とつて寝てる？横になったりしたらかえって体に毒や。ワシが起こしてくるわ。これ、徳さん、起きとかなあけへんがな。何をしてんねんな。開けさしてもらうで。スーッと開けますという、蛇含草を食べたもんですから、人間の方がすーっとくり溶けて、餅が甚平着て…ぷーっ。

徹が話し終わると拍手する長子、麻美、隆弘が見える。

そこは長子の家だ。

隆弘 いやあ、ありがとつ。

長子 すみません、私が蛇含草ってどんな話なんですか、なんて言っちゃったから、

徹 いえいえ、とんでもない。

隆弘 よし、じゃあ次は俺が、

徹 わあ、先輩の落語久しぶりです。

長子 あなた！

麻美 お父さん！

長子 この後は絶対駄目。

麻美 恥を知りなさい。

隆弘 え？

麻美 今日はお母さんの小説の為にわざわざ来ていただいたんですよ。

長子 そうよ。そっだこれ（原稿）まだ途中なんですけど前回皆さんからお話を聞いて書

いたもので、勝手に徹さんも登場してるんですけど、

徹 僕も？

長子 はい。

隆弘 長子！

麻美 お母さん！

長子 え、

隆弘 まず、徹の話を聞いてからの方がいいんじゃないか？

麻美 そうよ。そんな途中で読まれたら、混乱しちゃうわよ。

長子 そう？けど、

徹 僕は途中でもいいですよ。

隆弘 徹、今日はゆっくりしていけるんだろ。

徹 え、まあ。

隆弘 だったら、先に俺の釣竿コレクション見てくれよ。俺一旦会社に戻らないといけな

徹 いから。

隆弘 そうなんですか。

徹 夕方には雪乃と松村先生も来るから、なるべく早く帰るようにはするけど、

隆弘 雪乃先輩と松村先生にもお会い出来るんですか？！

徹 ああ、二人共お前に会いたって張り切ってたよ。

隆弘 うわあ、懐かしいなあ、特に松村先生なんて、卒業してから会ってないですもん。

隆弘 だろ、二人が来たら落ち着いて釣竿コレクション見てもらえないからさ、今のうち

隆弘 に、こっちこっち、

と、隆弘は麻美に目配せをして、半ば無理やり徹を連れて行く。

麻美 なんなの急に、せっかく原稿読んでもらおうと思ったのに、

原稿って、この間、私とお父さんが読まされた無茶苦茶なやつでしょ。

長子 え？無茶苦茶？

麻美 だから、蛇含草を取りに壺算山に登ったら変な人ばかり出てきて、あげく私がおばさんばかりのすみれ畑に移住するってやつ。

長子 そうよ。

麻美 絶対読ませない方がいいと思う。お父さんもそう思っただけで徹さんを連れて行ったんだから。

長子 そうなの。え、なんで？

麻美 読んだ後だと馬鹿馬鹿しくなって真面目に話す気なくすからに決まってるじゃない。

長子 え、

麻美 わざわざ取材までしてるから、もっとドキュメンタリーぽいやつ書きたいのかもしれない。

長子 ドキュメンタリーっていうか、サスペンスとかミステリーっぽくはしようと思ってただけど、

麻美 どこが？

長子 だから、その…、ほら、前に話したでしょ、もしかして殺人か什么的なものも入れてみようかなって、

麻美 入ってなかったわよ。変なウグイスとかカントリーマーム好きの山賊とかなら入ってたけど。

長子 それは…、話がまとまらないまま書き進めたらちよっと変な方向にいつちゃったって言うか。

徹の姿が見える。

長子 本当はね、その一緒に住んでたって人に話を聞きたいんだけど、何処の誰かもわからないし、

麻美 とにかく、これは絶対読ませない方がいいと思う。

長子 …わかった。

麻美 じゃあ、私そろそろ行ってくる。

長子 え、何処に？

麻美 今夜も宴会になるだろうから、焼き肉の材料買ってきてって言ったのお母さんでしょ。

長子 ああ、そうだったわね。ありがと。

麻美 ありがたいと思うなら、私がすみれ畑に移住するとこ消しといてね。

麻美いく。

長子 …（原稿を見て）そんなに無茶苦茶かなあ…、まあ無茶苦茶か…、

徹来る。

徹 部長、会社に戻りましたよ。

長子 そうですか、すみません、せっかく来ていただいたのにバタバタして、

徹 いえ、僕が今日しか時間とれないって無理言ったから、

長子 じゃあ、早速なんですけど、亡くなった静さんの、

徹 知ってますよ。

長子 え？

徹 その一緒に住んだ子の連絡先。

長子 本当ですか？

徹 創作落語のネタ探して、なんか面白い事ないですかって克也先輩と静先輩に聞いた事があったんです。その時その子の話を聞いて、落語のネタにもしましたが、あんまり変わってたから僕のやってるユーチューブ番組にも出てもらって、

長子 そうだったんですか。え？変わってるって？

徹 ああ、（スマホを出し）えっと、この、僕のチャンネルの、あっこれだ、これが克也先輩ご夫妻とその子に出てもらったやつです。

徹がスマホをタッチすると、長子は消え、突然の曲と共に徹のユーチューブ番組が始まる。

現れる、克也。

克也

ある日、家に帰ったら妻の友達だという女の子がいたんです。妻に聞くと、知り合って間もないが飲食店を経営したいらしく開店に必要な事を聞きに来たのだと言われ、遅くまであれこれ教えているようで、結局その日は泊まっていくことになり、朝御飯も一緒に食べて、私は仕事に行きました。

徹

克也

帰宅するとその子はまだいて、また一緒に晩御飯を食べました、どういふことかと妻に聞くと、自分の作った服をとても気に入ってくれて、あつ、妻は今、変な服を作る仕事をしているので、それでその子の店の衣装や制服も作るからその打ち合わせをしている、ちゃんとお金も払うって言ってくれてるしこれは仕事だ、なんて嬉しそつ言い、また遅くまであれこれして、結局また泊まっていく事になり、朝御飯も一緒に食べて、私は仕事に行きました。

徹

克也

さすがにもういないだろうと思っていたのに、帰宅するとまたいて、次の日も次の日も、その次の日も、またその次の日も、そのまた次の日もいて、ついにその子は何かの用事で出かけて行っても「ただいま」と帰ってくるようになりました。

徹

え？

あれから三年、今もその子は我が家にいます。

ええええ……その、あなたは奥様やその子には何も言わなかったんですか？

もちろん言いましたよ。妻も最初は、実家に帰らなくていいの？むしろ帰ったらなんて言っていましたし、私だってまだいるのか、ていうか帰れ、むしろ来るなど言っていました。

それでも、帰らなかったと、

はい。

その、家賃とか食費とかは、どんな感じなんですか？

一円も、

一円も？

一円も払わず、いや家賃や食費どころか、シャンプーだってリンスだって、歯磨き粉だって歯ブラシだって、外食時の支払いだって、一円も払わず、拳句の果てにマジックバーの内装を手伝えとか「ちゃんとお金払うから作って欲しい」と言って妻が作った衣装代だって「あ、忘れてた」とか言って払わず、それでも、更にこれ作って、これやってと、次から次へと――！

お、落ち着いてください！

す、すみません、つい……

けど、あなたも奥さんも、どうしてそこまで、

妻は元々食いしん坊で、

は？

さすがに言うわ、なんて言っても、いっぱい食べてると機嫌がなおり「まあ私達もお店やる時、色んな人に助けてもらったしね。」とか、「あの子、お金ないし仕方ないか。」なんて言い出して……。そもそも、妻は本当に大喰らいなんです。いつも「三日分作っておこう。」なんて言って大量に作っては、全部食べてしまうんです。おかしいんです！

なるほど。では、そのホラー映画も真つ青のお二人にご登場いただきましょう、鈴野静さんと赤崎美紀さんです、どうぞ。

静と美紀来る。

ちよつと、かつちゃん、なんで私までおかしい事になってるのよ。私も同じ被害者ですよ。

いや、お前もおかしい、しかも絶対食べすぎだ。

美紀さんは、このご主人の訴えについてどう思われますか？

まあ、静とは親友で、それにもう家族になったって言うか、家族ではない、

うん、家族ではない。

ええーなんで？じゃあ何？

克也

徹

克也

徹

克也

徹

克也

徹

克也

徹

克也

徹

克也

徹

克也

徹

静

克也

徹

美紀

克也

静

美紀

克也 何って、居候だろ。

美紀 居候？

静 ほら、ドラえもんもそうでしょ。のびた君と兄弟じゃないけど、一円も払わずに家にいるやつ。

美紀 ああ。

静 いやけど、ドラえもんは便利な道具とか出すから違うか。

克也 どっちかって言うとオバQじゃないか？

静 ああ、そうね。

美紀 オバQ、あんまり知らない。

静 え、毛が三本生えて、犬が嫌いなお化け、知らない？

美紀 顔とかは知ってるけど、内容はわからない。、

克也 じゃあ、何がいいかな？

静 (徹に) ちょっと待ってくださいね、今、適切なキャラクター探しますから。

徹 いや、探さなくていいですから、つまり、美紀さんは居候であると。

克也・静 はい。

美紀 けど、マジックバーの家賃は自分で払ってます。

克也・静 当たり前だろ (でしょ) !

徹 …そもそも、どうしてマジックバーをやるうと思ったんですか？

美紀 マジックが好きで、マジシャンになりたいくて、マジックバーやればいつでも出来るし、他のマジシャン呼べたら見れたりするし、

徹 なるほど、マジックへの情熱ですね。それでマジックバーの売り上げで家賃を払って、

美紀 いえ、それは… (静を見る)

静 家賃が払える程儲かってないんです。いえ、むしろ全然儲かってないんです。だからたまにバイトして、(美紀に)ね。

美紀 そう。

徹 たまに？

静 あんまり毎日バイト出来るタイプじゃないんです。

美紀 はい。

克也 バイトの前の日は、行きたくない行きたくないって夜中に騒ぐんです。

静 大変なんです。

徹 どういう事ですか？

美紀 バイトが嫌いで、

徹 いや、嫌いって言っても、

美紀 でも、今はお世話になってるけど、静達の老後の面倒は私が見るので。

徹 バイトも出来ず、マジックバーの経営も上手くいってないのに？

美紀 はい。今から二人が寝たきりになった時、どうやって支えるかとかの勉強の為に介護の本みたりしてます。

徹 なるほど、わかりました。

克也 わかってくれましたか、私の苦悩を、

徹 はい、三人共おかしいです。

三人 ええええ！

徹 そんな、現代の道具を出さないドラえもん、赤崎美紀さんの他人のお金で生活して経営するマジックバーは、

美紀 え？

静 ほら美紀、宣伝、

美紀 ああ、うん、えっと…、

徹 野瀬町三丁目八十五にあります、ぜひ、来てください。

徹 以上、ホラー映画も真つ青な鈴野家のお二人と、居候の赤崎美紀さんでした。

徹のユーチューブ番組が終わり、徹、静、克也が消えると、長子が来る。

長子はキヨロキヨロと辺りを見回し、美紀を見つける。

長子 あつ、赤崎さん、赤崎美紀さんですよ。

そこは、喫茶店の様だ。

長子 初めまして、三好長子と申します。お時間いただいてありがとうございます。ユーチューブ見てたから、すぐにわかりました。

美紀 ……そうですか、

長子 ……ごく面白かったです。こんな事あるんだなって、

美紀 別に、今はあんな生活してませんから、

長子 え？

美紀 なんか、見た人にいろいろ言われて、あんまりいい思い出ではないんで、いろいろって？

長子 なんて生活してるんだとか、駄目人間とか…、

美紀 ああ、

長子 だから、あの後、静の家も出だし、彼氏も出来て、今はその人とちゃんと暮らしてるんです。

長子 ……そうだったんですか。…えっとそれで、電話でお話した通り、私、小説を書いて、その、静さんの事を、

美紀 私に聞かれても、全然連絡も取ってなかったから、

長子 連絡も取ってないって？

美紀 だから、彼氏と暮らし出したんで、今はマジックバーもやめだし、別の仕事もしてるし、

長子 静さんが亡くなったのは、

美紀 それは、後で聞いて知りましたが、どうやって死んだとかはわからないので、お役には立てないと思います。
長子 ……そうですか…。
美紀 じゃあ、あんまり時間ないんで、すみません。

美紀、行くとする。

長子 あの、
美紀 え、
長子 何かあつたんですか？
美紀 何かって？
長子 だから、静さんと、…その、喧嘩したとか。
美紀 ……なんにも、なんにもないですけど、
長子 だって、
美紀 ……いえ、わざわざ来ていただいて、ありがとうございます。
長子 ？

美紀、行く。

長子 ……。

隆弘来る。
そこは、長子の家。

隆弘 ご飯は？
長子 ああ、ごめん。ちょっとボーっとしてた。
隆弘 麻美が帰っちゃって寂しいのか？
長子 寂しいのはあなたでしょ。私は小説が全然進まなくて困ってるの。これがスランプ
隆弘 ってやつなのかしらね。
長子 いや、スランプってのは、元々書けてた人が書けなくなることだろう？
隆弘 じゃあ何？まさか、才能がないって事？
長子 なんであると思ってたんだ？
隆弘 別に、あるとは思ってないけど、ほら私文芸学部だったし、
隆弘 って、何年前の話だよ。
長子 まあそうだけど、
隆弘 けど会えたんだろ、その一緒に住んでたって子に、
長子 うん。

隆弘 ユーチューブ面白かったもんな。克也達があんなキテレツな生活してたなんて知らなかったよ。

長子 全然印象が違ってた。

隆弘 へえ。

長子 だから、余計書けなくなったって言うか…、

隆弘 そもそもさ、静の事書かなくてもいいんじゃないか。

長子 え、

隆弘 お前、絶対SFとかファンタジーのが向いてるよ、面白いかどうかは別にして、

長子 そんなの書きたくないもん。

隆弘 そうかな？そういうの書いてるとしか思えないんだけどなあ。

長子 だから、それも含めてなおそうと思ってるわよ。

隆弘 もし、みんなに取材させてもらったから申し訳なくて、とかなら、

長子 そんなことないわよ。書きたいの。書きたいっていうか…。鈴野さんご夫婦が、お店やるからってうちに来た時、本当に凄いなって思ったの。私、何か絶対やりたいものなんてなかったし、学生の頃の友達とも全然連絡とってないし、そういうのも含めて全部、…そうね、もしかして、羨ましかったのかもしれない。小説家になろうって思ったのも、今思えばだけど、何か初めなきゃって、そんな風に…。ほら、私、これと言って何もしないうちにあなたと結婚して、麻美が出来て、だから、

隆弘 長子、

長子 いや別に、満足もしてるし、幸せだとも思ってるわよ。ずっと考えてたって訳でもないし。けど麻美が家を出て、これでもしあなたが突然交通事故とかで死んだら、勝手に殺すなよ。

隆弘 そうなんだけど、そんなこと思って、やっと小説書こうとした時に、あのニュースを見て…、って、とりあえず、ご飯作るね。

隆弘 うん。

長子、行く。

隆弘 …。

隆弘は、長子の書いていた原稿を手に取り、

隆弘 …スランプって言うわりに結構増えてるじゃないか…。「黄泉の洞窟で、散々変なドラえもんもどきの話を聞かされた落語家徹は、もうこの洞窟を出て先に進むのかとも考えた。が、どうしても赤いきつねが食べたくて、ここでお湯をもらっぺきだと決断した。」は？ …「けれど黄泉の洞窟の住人である克也と静とは会話がままならず、そこでついに落語家最大の能力、イタコ術を試みた。」イタコ術って…、ついにホラーまで入ってきたな。「イタコ術とは魂を降ろして憑依させる術で、ほ

ほ全ての落語家はこの術を使い、何人もの人物を演じているのだ。徹はその術を使い、関所にいた紀美にもう一人の同居人、美紀を憑依させることに成功した。これでお湯が手に入ると思った途端、やはり生きている人を憑依させることに無理があったのか、徹は息絶えたのだった。「ええええ——?! おい長子、これいくらなんでも無茶苦茶過ぎないか?」

等と言いながら隆弘、行く。

突然テレビがつき、いつかの現場検証が見える。

鑑識や刑事達が作業をする中、

徹と関所の紀美と克也と静が見える。

そこは黄泉の洞窟のようだ。

テレビの人達が消えると、

克也 ごめん、俺、再発したみたいなんだ。

静 え?

徹 駄目だ、このままでは絶対に赤いきつねが食べられない。

関所の紀美 いや、今、それどころじゃない話をしてますよ。

徹 これはもう、落語家最大の能力、イタコ術を使って会話の通じる人を降ろすしかない。

関所の紀美 え?

徹 イタイタコンコン、イタコンコン!

と、徹は急に苦しみ出す。

徹 グヌ、グオ——!!

徹は苦しみながら、行く。

関所の紀美 え、ちよつと、大丈夫ですか?

関所の紀美は徹の後を追う。

静 …再発?

克也 だから、転移してるって、

静 …えつと、

克也 とりあえず、入院するんだけど、

静 いつから?

克也 月初めの二月一日から、

静　　そっか…、大丈夫、だよね。

克也　…うん、大丈夫。美紀にも言っといたから、

静　　美紀に？ああ、入院のこと？

克也　いや、俺の入院中、うちに来てくれって、

静　　なんで？

克也　なんでって、静も一人より助かるだろ。うちの親父の事もあるし、

静　　けど美紀、今は結構彼氏の、ほら、信二君とこにいるみたいだし、最近忙しそうだから。

克也　それにしたって、しょっちゅう来てるんだし、

静　　それはそうだけど、

克也　こんな時に役に立たないでいつ立つんだよ。しかし、最初彼氏連れて来るって言った時はびっくりしたよな、しかもSNSで出会ったとか、

静　　うん、とんでもない子だったらどうしようかと思ってたけど、予想に反してしっかりしてるし、いい子そうで良かったわよ。

克也　まあ、美紀も恩返しします、任せてくださいって言ってたから、

静　　そっか…。お父さんの病院もあるし、正直、私もかっちゃんが長い間いないなんて初めてだから、美紀が来てくれるなら心強いわ。

克也　なんでこんな他人の面倒みないといけないんだと思ってたけど、俺がこんなことになってみたら、良かったのかもな。

静　　うん。

克也　ごめんな。

静　　…そう思うなら、早く病氣治して、

克也　うん。

突然、何かが溶ける音が響く。

静が一人、三味線の調律している、美紀、いや、美紀の憑依した関所の紀美が来る。

関所の紀美　新しいお隣さんに、三味線の音、怒られたんじゃないっけ？

静　　ああ、うん、そうなんだけど、最近全然弾いてなかったから音合わせてただけ。そ

うだ、晩御飯何食べたい？こういう時は美味しい物いっぱい食べて、

関所の紀美　別に何でもいい、あつ、晩御飯食べたらすぐ帰るね、今日は信二早く帰って来るから。

静　　え、そうなの？

関所の紀美　それで、克也さんに頼まれたから来たけど、美紀も毎日来れる訳じゃないから。

静　　あ…、うん。…それは、かまわないけど、

関所の紀美　（予定表を見て）えっと、明日から三日間は信二が休みだから向こうに帰って、五日にはこっちに来て（ため息をつく）

静

…あつけどさ、かつちゃんのお父さんいつもの病院連れていかなきゃだから、その日は来てね。お父さん、病院連れて行くの大変だから。

関所の紀美

いつだっけ？

静

十一日、

関所の紀美

ああ、その日は信二と遊ぶから無理。

静

え、

関所の紀美

ねえ、足が冷たいからスリッパ買ってよ。

静

…別に午前中だけだし、なんなら信二君も一緒に来ればいいじゃない。お父さんタクシーから降ろして車椅子乗せる時支えてないと一人で立つてられないし、

関所の紀美

信二人ごみ嫌いだって言ってたから、嫌がるんじゃないかな。

静

…そう。

関所の紀美

あと、旅行の予定もあるから、十五日から十八日も絶対無理だから。トロッコ列車乗りに行くの。

静

人ごみ嫌いなのに？

関所の紀美

え、うん。そうだ、新しいバイト始めようと思ってるんだけど、何がいいと思う？

静

新しいバイト？

関所の紀美

ほら、信二と暮らしていくのにやっぱり家賃とかあるしさ。

静

得意の居候すればいいんじゃない。

関所の紀美

そういう訳にはいかないでしょ。

静

うちは？うちではしてたじゃない。

関所の紀美

だから、美紀は静を経て、真人間になったの。

静

…そう。

関所の紀美

昨日遅かったからちよっと寝るね。ご飯できたら起こして、って言うか、美紀来なくても良かったんじゃない？

関所の紀美は部屋へ行き、眠る。

間

静

…晩御飯作るか、こういう時は美味しい物いっぱい食べて…、そうだ、明日持つてくかつちゃんの着替え洗濯しとかないと…、

突然、何かが溶ける音が響く。

克也は病室にいる。

克也

まさか、親父まで入院になるなんてな。

静

うん、急に倒れたって、びっくりした。

克也

悪かったな、俺がいない時に、

静 それはいいんだけど、心臓が随分悪いんだって、
心臓？

静 なんか、弁が硬くなってる、けど年齢考えたら手術に耐えられるかどうかかわらないし、むしろ長いこと入院になったら結局それで寝たきりになるかもしれないから、どうするか考えておいてくださいって、

克也 そうか…、俺が先に死んだら親不幸だと思ってたけど、親父が先に逝きそうだな。馬鹿なこと言わないでよ。とりあえずお父さん退院したらうちに来てもらわないとだし…、早く帰ってきて、

克也 ごめんな。

静 だから、そう思うならそう思うなら早く帰ってきてって、

克也 うん。まあ、とりあえず美紀もいるんだし、当面は美紀と協力して、

静 …。

克也 静？

静 え？

克也 どうした？

静 うっうん…、そうだね。

突然、何かが溶ける音が響く。

静のスマホが鳴る。

静 はい。

今度、ミスターマジックのショーに私もちょっとだけ出して貰える事になって、

静 ああ、最初手伝いで来てた時、出てた人？

関所の紀美 そう、大御所なんだよ。それで、新しい衣装で出たいの。形は前作ってくれた緑のやつみたいなのでいいんだけど、もっと派手にしたくて。十五日までだけど、いける？

静 …私、かっちゃんも、かっちゃんのお父さんも入院してて、忙しくて、

関所の紀美 ごめん、静も大変なのはわかってる、本当にごめん。けど、今までも作ってくれてたじゃない。

静 …。

関所の紀美 本番は七日だけど、リハーサルでも衣装着たいから、

静 …わかった。

関所の紀美 ありがとう！本番も見に来てね。

静 じゃあ、七日が済んだら少し時間ある？

関所の紀美 え、

静 十日にかっちゃん手術するからついてないといけないくて、かっちゃんのお父さんの病院にいけないから、美紀行ってもらえないかな。

関所の紀美 …わかった。

静 ごめんね。

関所の紀美 じゃあ、衣装よろしくね。

静は電話を切り、

静 …えっと、前の型紙、

突然、何かが溶ける音が響く。

克也 ごめんね、俺がこんなだから、親父の葬儀も任せっきりで、

静 しょうがないよ。かつちゃんこそ、最後にお父さんと会いたかったでしょ。

克也 そうだな…、けど、すぐ会えるよ。

静 ちよっと、

克也 お前は結局、いっぱい食べてれば機嫌がおなるんだから、

静 え、

克也 何があっても、いっぱい食べろよ。

突然、何かが溶ける音が響く。

また、静のスマホが鳴る。

関所の紀美 連絡遅くなってごめん、バタバタしてて、衣装ありがとう。それに見に来てくれて

静 ありがとう。美紀どうだった？

かっちゃんの手術の日、お父さんの病院に行ってくれるって言ったよね。

関所の紀美 …ごめん、その日、信二がミスターマジックのステージに出たお祝いしてくれるっ

静 て言ってたの、忘れてて、

そんなの何時でも出来るじゃない。

関所の紀美 けど、約束してたから、

静 私としてもしたよね。

関所の紀美 …ごめん。

静 もういい、かっちゃんのお父さん、亡くなったから、

関所の紀美 …そうなんだ、大変だね。

静 …そう、私、大変なの。

関所の紀美 ねえ静、いろいろあつて、静疲れてるんじゃないかな。だから、かしこくなって距

離をとってほしい。

静 え、

関所の紀美、電話を切る。

静

……そうだ、晩御飯作ろう。って、あれ？そう言えば最近、お腹が空かない…。何があっても、いっぱい、いっぱい食べ、ないと…。

静は、うずくまり、そのまま倒れる。

雪乃にそっくりな光の女神ヒカと近藤にそっくりな光の女神メガ、辺りの匂いをかきながらやって来る。

光の女神ヒカ　クンクン。

光の女神メガ　クンクン。

光の女神ヒカ　イタコ術の臭いだわ。

光の女神メガ　そう？全然しないけど、あつ、私アレルギー性鼻炎で今鼻詰まってたんだった。

光の女神ヒカ　（静を見つけて）あそこに人が倒れてる。

光の女神メガ　本当だ。

光の女神ヒカ　やだ、イタコ術にやられたのかしら。

光の女神達、静に駆け寄る。

光の女神ヒカ　大丈夫ですか？私達は光の女神ヒカと、

光の女神メガ　メガです。

光の女神ヒカ　しっかりしてください。…違っわ、この人からはイタコ術の匂いがしない。

光の女神メガ　どういうこと？あ、見て！あそこー落語家が死んでる！

光の女神ヒカ　なんてこと…、イタコ術は使った人にも、使われた人にダメージがあるというのに、

光の女神メガ　イタコ術を使った無知な落語家は死んだのね。

光の女神達　南無！。

二人合掌する。

光の女神ヒカ　けど、おかしいわね、それならかけられた人もいるはずなのに、

光の女神メガ　私、かけられた人を探すわ。

光の女神ヒカ　けどメガ、鼻が詰まってるんですよ？イタコ術の臭いがわかるの？

光の女神メガ　鼻炎の薬飲むから大丈夫。（と飲む）あつ、もうスースーしてきた、行ってくるわ。

光の女神ヒカ　お願いね。

光の女神メガ、行く。

光の女神ヒカ

ところでこの人（静）は何で倒れているのかしら…？大丈夫ですか？しっかりしてください。はっ！黄泉の洞窟の住人の臭い！じゃあこの人はもう…、ならこのまま死んでてもいいのかしら？いや、すでに死んでるのか、むしろ今が通常運転か。

静は突然起き上がり、

静　ちよっと、耳元でゴチャゴチャ言うのをやめてもらっていいですか？

光の女神ヒカ　やだ、生きてる。

静　いえ、死んでます。

光の女神ヒカ　そうですよね。けど、どうしてこんなところで倒れてたんですか？

静　なんだか、お腹が痛くて、

光の女神ヒカ　あら大変、とりあえずここはイタコ術の匂いがきつすぎて危険ですし、どこか落ち着けるところに移動した方が…、そうだ、光の神殿に行きましょう。

静　光の神殿？なんですか、そのめちやくちや良さそうな所は、行きます。

光の女神ヒカ　では、早速、

静　その、光の神殿には美味しいものありますか？

光の女神ヒカ　美味しいのですか？

静　最近、ご飯が食べれなくて、

光の女神ヒカ　さつき、サツマイモいっぱい焼いてきたから、ピーナッツバターを塗って食べれますよ。あと、今日の光の神殿の昼食は、特大総重量三、五キロ天井、豚の角煮一キロつきセットです。

静　美味しそう。それなら食べれそうです。

光の女神ヒカ　では、行きましょう。

静　はい。

光の女神ヒカと静行く。

光の女神メガ、また辺りの匂いをかぎながら、来る。

光の女神メガ　クンクン。この匂い（関所の紀美に）あなたね、イタコ術をかけられたのは、関所の紀美　え？

光の女神メガ　けど、結構元気そうね。

関所の紀美　って、誰ですか？

光の女神メガ　私は、光の女神メガよ。イタコ術の臭いを辿ってここまで来たの。

関所の紀美　イタコ術？

光の女神メガ　あなたにかけられた術よ。

関所の紀美　私に？！

光の女神メガ　とにかく一度調べないと。それでなんともなければ危険だからもう山を降りた方がいいわ。落語家でもないあなたがこんなところまで登ってくるなんて、落語家さんと一緒に登ってたんです。けど、見当たらなくて、

光の女神メガ　イタコ術をかけた愚かな落語家なら死んでしまったわよ。

関所の紀美　えええ！

光の女神メガ　ね、だから身体を調べて、その後、山を降りなさい。

関所の紀美　けど私、蛇含草を取りに行かなくちゃいけないんです。

光の女神メガ　蛇含草？どうしてそんなもの、

関所の紀美　ずっと泊まってたホテルがあって、三食アメニティつきで、しかもただで、

光の女神メガ　ええ？！そんなところがあるの？

関所の紀美　はい。気のいいご夫婦で経営されてて、長いこと使ってたんですけど、体調が悪くなったらみたくて、だから蛇含草を届けてあげたくて、その人凄くよく食べるから心配で、

光の女神メガ　優しいのね。とにかく一度落ち着けるといって、イタコ術の影響がないかみ

ましよう。あつ、ほら、ちょうどあそこにお店の看板が、…落語の聞ける…、聞いたことあるわ。あそこが落語の聞ける鉄板焼き屋じゃないかしら？

関所の紀美　いいえ、ホテルです。

光の女神メガ　ホテル？

関所の紀美　落語の聞けるホテル。言ってたでしょ、ただで泊まれるホテルがあるって、

光の女神メガ　なら、ちょうどいいわ。そのホテルに行きましょう。

関所の紀美　けど、まだ蛇含草を手に入れてないし、あんまり行きたくないなあ。

光の女神メガ　え？

関所の紀美

いや…、けどそうですね。このまま一人で頂上に向かうのは危険だし、あそこで一泊して朝から登った方がいいですよ。誰か一緒に行ってくれる人も見つかるかもしれないし、行きましょう。

関所の紀美と光の女神メガはホテルに入ったようだ。

長子、来る。

長子　いらつしやいませ。落語の聞けるホテルへようこそ。

関所の紀美　あれ？

光の女神メガ　お部屋、お願いします。

関所の紀美　（長子に）新しい従業員の方ですか？

長子　え？

関所の紀美　だって、

長子　ああ、前のオーナーはご主人が亡くなりましたので、営業出来なくなって、

関所の紀美　亡くなった？

長子　はい、だから私が引き継いだんです。ちょうど娘も独立したし、私も何か始めなきゃって、

関所の紀美　そうだったんですか、

長子　お食事はどうなさいますか？朝食は壺算山名物時うどん食べ放題、夕食は壺算山名

物時うどん食べ放題つきの高級懷石をご用意しておりますが、

光の女神メガ 時うどん食べ放題！凄い！名物で入手困難な人気商品なのに……けど、何故でしょう？なんだか少し心が、いえ、足が痛むような…。

関所の紀美 わかります、私も何故か過酷な労働が浮かんで、

長子 そうなんです、私も、

紀美・メガ え？

長子 けど、だからこそ、この足の痛みの分まで食べて食べて食べまくってやろうと思っ
たんです。

光の女神メガ なるほど、では私も食べまくります。食事つきの一泊で、

長子 承知しました。では、一泊二食つきで、お一人様七千円です。

関所の紀美 え、

長子 麻美！お客様をお部屋にご案内して、

麻美声 はい。

麻美来る。

光の女神メガ あら？娘さん独立されたんじゃないんですか？

長子 そうなんですけど、行くところがないみたいで、休みの度に帰ってくるんです。

麻美 行くところがないって何よ、お母さんが新しいこと始めまくるから心配で来てるんでしょ。（メガと紀美に）どうぞ、こちらです。

光の女神メガ ありがとうございます。

麻美は、光の女神メガと関所の紀美を部屋へ案内しようとするが、関所の紀美は動かない。

関所の紀美 あの、

長子 はい。

関所の紀美 お一人様、七千円ってどういう事ですか？

長子 え？

関所の紀美 ただじゃないんですか？

長子 ただって？

関所の紀美 私、ずっとただで泊まってたんですけど、

長子 よくわかりませんが、うちも商売ですので、

関所の紀美 そんな、

光の女神メガ いいじゃない、二食ついて、時うどんの食べ放題までついて、七千円って安いわよ。

関所の紀美 けど、…（長子に）お願いします、私どうしても蛇含草が欲しくて、だからここに泊めてもらわないと困るんです。

長子 どうして？

関所の紀美 え、

長子 どうしてただで泊まれると思ったんですか？

関所の紀美 だから、

長子 ただで泊まれる訳ないでしょ。そんなホテルなんてある訳ないでしょ。蛇含草が欲しくて？困る？それ、私に何か関係あるんですか？

関所の紀美 けど、今までもずっと、

長子 今までとは違っでしょ。違っでしょ？あなたがそう言ったんでは！

麻美 ちよっとお母さん、お客様に失礼よ。（関所の紀美に）すみません、けどお客様もただと言っのは、

関所の紀美 けど、

麻美 そうだ、ほらお母さん、蛇含草ならうちにあるじゃない。

関所の紀美 え？

麻美 頂上から取ってきたお客さんが、魔除けになるからって分けてくれて、だからあそこにはぶら下げてあるんです。あれがあれば泊まらなくてもいいってことですよ？はい！嬉しい、もう頂上に登らなくていいんですね、蛇含草さえあれば私、

長子 蛇含草もただで欲しいって言っんですか？

関所の紀美 え、だって、もらったものでしょ。

長子 嫌です。

麻美 お母さん、

長子 絶対に嫌です。どんなにお金をもらっても、あなたには渡したくありません。

関所の紀美 …わかりました、じゃあ、もう結構です。

関所の紀美、行こうとする。

光の女神メガ 待つて、何処に行くの。イタコ術を解かないと、

関所の紀美 イタコ術なんてかけられていません。私、元々赤崎美紀です。

関所の紀美、いや、赤崎美紀、行く。

麻美 …お母さん、

長子 …（光の女神メガに）どうなさいますか？もう必要なくなれたから、お泊まりはやめられますか？

光の女神メガ …そうですね、けど、私、ここが気に入ったし、日頃慣れない土地での夫の親の介護も大変で、だから、今日は泊まって食べて、ゆっくりしていきます。

長子 そうですか、良かった。もうすぐ当ホテル名物の落語も始まります。どうぞ、ごゆっくりなさってってください。

光の女神メガ はい。

麻美 どうぞ、こちらです。

麻美は光の女神メガ、いや、近藤を部屋へ連れて行く。

…。

長子はいつもそうしていたように、小説を書き出す。

と、出囃子が聞こえ、着物を着た落語家の徹が登場する。

■えっ？ この餅箱の餅、みな食てもよろしいの？ ●よろしいので、こないぎょうさんの餅が食えるかいな。■いや、わたい餅好きだんねん。これぐらい一人で食えますわー。…とこの女、別に意地張った訳でもなく、簡単にみな食てしもた。まあ、世間には食いしん坊、大喰らいなんてのがいてるもんで、この女が正にそれ、けど、そんなに食いしん坊やったのにある日を境になんも食べてへんに喉まで餅の詰まったように苦しみだした。■今まで食べた分が全部戻ってきたんかいな。まあいろいろあったし、それで食欲がのうなったんやろか。一番の親友が遠くへ引越すことになった、けど友情に変わりがある訳やない。大丈夫や、ちよつと寂しいだけや。気の合うお隣さんも遠くへ引越していつて、かわりに嫌な奴がきよった、けど愚痴言うてご飯を食べればなんて事ない。夫の父も看取った、けど大丈夫。何があってもいっぱい食べたらええんやて夫も言つとった。けど、そない言つとった最愛の夫まで死んでしもた。さすがにこれはショックや。いっぱい食べて元気ださんと、いっぱい、いっぱい食べて、そない思ってたのに腹はすいても食べられへん。おかしいなあ、なんでかなあ、どうもしくりこん、えらいけつたいやなあ。なんでやろ、自分の親が死んだ時ですら、あないにぎょうさん食べてたのに、ずっと喉まで餅が詰まってるみたいや。それに、ここには誰もおれへん。ついこないだまで、あないに賑やかやったのに、けどなんであんなに賑やかやったんやろ？…せや、ある日、小さい蛇が家の中に入って来たんや、すぐに追い出したら良かったんやけど、体も弱って震えてた。可哀想になつて餌やったら、手に乗ってきたり、首の周りをチヨロチヨロほうたりえらいなついて、しまいいは喋り出して「鶴が恩返しした話知ってまっか？ 私します。この「恩は忘れません、蛇の恩返しですわ。」なんて言つもんやから、すっかり可愛なつて、そのまま餌やり続けてしもたんや。ほんだらドンドンドンドン大きなつて、最後には大蛇になった。ここまで大きかったらもう魔物、ウワバミや。ある日そのウワバミにバクーっと食べられたんかいな。そうするとウワバミも腹がこないふくれ上がつて、その時そのウワバミ、蛇含草をペロペロッと、舐めよつたんや。

落語が終わると、静が三味線で下げ囃子弾き、徹は舞台を降りていく。

美紀来る。

落語も面白いですね。

静　　でしよ、私落研で。マジックやられてるんですか？

美紀　はい、今日もミスターマジックさんに頼まれて、

静　　私は、以前落語の聞ける鉄板焼き屋やってたから、そこでお世話になった落語さんに頼まれて、

美紀　落語の聞ける鉄板焼き屋？！凄い！実は私、マジックバーがやりたくて、けどどう

静　　したらいいか全然わからなくて、いろいろ教えてもらえないですか？

美紀　私でわかることならいいですけど。

静　　これ全部静さんが作ったんですか？！凄い！静さん衣装も作れるんですね！いいなあ、静さんの作る衣装、私もこんなの着たいなあ。

美紀　作ろうか？

静　　いいんですか？！

美紀　うん、そんなに忙しくない時なら、一着プレゼントする。

静　　嬉しい！けど、ちゃんとお金は払います、絶対。だってそれだけの価値があるもん。

美紀　こんなので出れたら凄く嬉しい。

静　　そう言ってもらえると私も作り甲斐あるわ。

美紀　静、ねえ、静。

静　　呼び捨て？

美紀　だって、私達親友でしよ、いいよね？

静　　まあ、別にいいけど、

美紀　今はお世話になってるけど、老後は美紀が静かの面倒見るんだから、だからあんまり食べ過ぎて重たくならないでよ、介護が大変になるでしよ、

静　　いや、私が年寄りの時、美紀だって結構ヨボヨボでしよ、

美紀　老老介護だね。

静　　そういうの、老老介護って言うのかな？

美紀　じゃあ、なんて言うの？家族だから、普通の介護か。

静　　普通の介護って何よ。

美紀　そうだから、蛇含草。

美紀は確かに、手に蛇含草を持っている。

静　　蛇含草？

美紀　美紀が静の為に取ってきたの。静、疲れてるみたいだから、意地悪なホテルから苦労して盗んできたのよ。

美紀は静に蛇含草を渡す。

静がそれを受け取ると、美紀は行ってしまう。

静はその蛇含草を、食べた。

光の女神ヒカ、来る。

光の女神ヒカ どうですか？光の神殿の居心地は？

静 とてもいいです。

光の女神ヒカ その割には、サツマイモも天井も全然食べてないですけど、

静 そうなんです、最近ご飯が食べれなくなって…、けどもう大丈夫です。

と、静かは手に持っていた蛇含草を見る。

光の女神ヒカ それ、蛇含草…、どうしてこんな物を？

静 もらったんです。

光の女神ヒカ もらった？

静 だからもう、きつとご飯も食べれます。

光の女神ヒカ まさか、食べたんですか？

静 …。

光の女神ヒカ 知ってるでしょ、これを食べたら溶けてなくなっちゃうんですよ。

静 けど、私は宇宙からきた変身型生物だから、大丈夫です。

光の女神ヒカ 何言ってるのよ静！

それは光の女神ではなく、雪乃だ。

静は、雪乃を、雪乃として見た。

雪乃 …大丈夫な訳ないでしょ！

静 本当、そつだよね。うっかりしてた。そう言えばずっと、お腹が痛かったんだつた。

雪乃 ねえ雪乃、私はいつ蛇含草を食べたんだろっ？

雪乃 静…、

静 そう、痛くて痛くて、どうしよう。…助けて雪乃、

雪乃 助けたいわ。…助けたかったわ。けどもう…。ごめんね、私が傍にいれば、私が北海道なんかに行かなかつたら、私が、

静 何言ってるんのよ。かわいいお嫁さんになって旦那さんについて行くのが、雪乃の夢

雪乃 だったでしょ。

雪乃 …ねえ静、何があつたの？

雪乃 何があつたの？

長子

ずっと小説を書いていた長子は、まるで静に話しかけているようだ。

静 え？

雪乃 どうして…、あんなに食いしん坊だったのに、

長子 どうして、あんなに楽しそうだったのに、

雪乃　ご飯も食べずに、

長子　溶けてなくなるまで一人で、

長子・雪乃　何があつたの？

静　…なんにも、

長子・雪乃　え、

静　もっと、雪乃が、みんなが、納得出来るような大事件でもあれば良かったんだけど、

なんにもなかったの。あると思つてたものの全部、なんにもなかったの。

あつたわよ！

長子・雪乃　今だってみんな、

雪乃　それに私だって、

…。

静　…死ぬ前に会えれば良かった。

長子　会つてたじゃない。部長の家にも行つたし、うちの店にも来てくれたし、

静　そうね。あの時、勇気を出して言えばよかった。

長子　何を？

静　わかつたの。私、あなたの小説を書きたかつたんじゃないくて、友達になりたかつた

長子　んだわ。

静　友達に？

長子　そう。…ごめんなさい、いい年して何言つてんだらう、あなたの事何にも知らない

静　のにこんなこと、

長子　いいよ。

静　え、

長子　なろう。

静　…。

長子　友達になろう。

静　…だつたら、あなたが蛇含草を食べようとしたらそんなの食べちゃ駄目でしよつて

長子　止めるわ。私は家も近いしすぐに止めに行けるから、私、ちゃんと、ちゃんと止め

静　るから、

長子　ありがとう。…でも、もう、食べちゃつた。

静　静はゆっくりと溶けていく。

長子　…。

長子　…。

そこにはいつの間にか雪乃の姿はなく、長子と、溶けた静だけが見える。

そこは長子の家なのに、溶けた静が見える。

長子は書き上げた原稿を見て、ペンを置く。

麻美来る。

麻美 お母さん、お父さん今日も落語に行ったの？
長子 あんた本当に休みの度に帰ってくるけど、何処か他に行くところないの？
麻美 あるわよ、けど、お母さんとお父さんが変な事ばかりするから心配で帰ってきて
あげてるんでしょ。（と、長子が書き上げた原稿に目をやり）これ、出来たの？
長子 出来た。
麻美 ほんとに？！
長子 うん、…友達が出来た。
麻美 え？

突然、高崎高校落語研究会の部員たちと顧問松村が口々に「おはようございます」
「おはよう」等と言いなだれ込んでくる。

克也 あれ？三好、お前そんな顔だったか？
隆弘 え？何が？
雪乃 本当だ、昨日まであんなにかっこよかったのに、部長どうしちゃったんですか？
徹 やっぱりだ、やっぱりこの部室だけ磁場歪んでるんだ！
隆弘 なんの話だよ。
松村 はいはい、練習始めるわよ。今日はみんなに創作落語を作ってもらいたくて、テーマは学生らしく将来の夢で行こうと思ってるんだけど、どうかしら？
隆弘 いいと思います。
松村 （長子と麻美を見て）あら？こちらは？
隆弘 すみません、妻と娘です。
松村 三好君、部活に奥さんと娘さん連れてきたの？
克也 さすが急に老けただけあるな。
松村 まあいいわ。
徹 いいんだ。
松村 じゃあ、奥さんと娘さんも一緒に。みんなの夢を聞かせてちょうだい。
徹 僕は落語家になりたいです。
雪乃 私はかわいいお嫁さんになりたいです。
克也 俺は寄席がやりたいです。
隆弘 俺は絶対落研のある大学に入りたいです。
麻美 中小企業診断士になりたいです。
克也 なんか賢そうだな。
隆弘 俺の娘だからな。
長子 私は、小説が読めて、落語が聞けて、鉄板で一杯ご飯が作れて、いい人が沢山来る、ホテルがしたいです。
松村 凄く盛りだくさんね。

克也
雪乃

なんだか、似た夢を言ってたな。

そうですね、こんな盛りだくさんじゃなかったけど、

長子はゆつくりと、溶けた静を見る。

部員や松村もまた、溶けた静を見た。

幕